



NEC

N8120-010 US110E ユーザーズガイド

商標について

ICA はCitrix Systems Inc. の登録商標、Citrix Presentation Server は、Citrix Systems Inc. の商標です。Microsoft およびWindows は、Microsoft Corporation の登録商標です。

その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

オペレーティングシステムの表記について

Windows Server 2003はMicrosoft® Windows® Server 2003, Standard Edition operating systemおよびMicrosoft® Windows® Server 2003, Enterprise Edition operating systemの略です。Windows 2000はMicrosoft® Windows® 2000 Server operating systemおよびMicrosoft® Windows® 2000 Advanced Server operating system、Microsoft® Windows® 2000 Professional operating systemの略称です。Windows XPはMicrosoft® Windows® XP Home Edition operating systemおよび Microsoft Windows XP Professional operating systemの略です。Windows NTはMicrosoft® Windows NT® Server network operating system version 3.51/4.0およびMicrosoft® Windows NT® Workstation operating system version 3.51/4.0の略称です。Windows MeはMicrosoft® Windows® Millennium Edition operating systemの略称です。Windows 98はMicrosoft® Windows®98 operating systemの略称です。Windows 95はMicrosoft® Windows®95 operating systemの略称です。Windows CE 5.0はMicrosoft® Windows® CE Version5.0の略称です。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 弊社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- (4) 本書は内容について万全を期して作成いたしました。万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
- (5) 運用した結果の影響については(4)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

このユーザーズガイドは、必要なときすぐに参照できるように、お手元に置いておくようにしてください。「使用上のご注意」を必ずお読みください。

使用上のご注意 - 必ずお読みください -

本製品を安全に正しくご使用になるために必要な情報が記載されています。また、本文中の名称については2ページの「各部の名称と機能」をご参照ください。

安全にかかわる表示について

本製品を安全にお使いいただくために、このユーザーズガイドの指示に従って操作してください。

このユーザーズガイドには本製品のどこが危険か、どのような危険に遭うか、どうすれば危険を避けられるかなどについて説明されています。

ユーザーズガイドでは、危険の程度を表す言葉として、「警告」と「注意」という用語を使用しています。それぞれの用語は次のような意味を持つものとして定義されています。



警告

人が死亡する、または重傷を負うおそれがあることを示します。



注意

火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあることを示します。

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味を持つものとして定義されています。

	注意の喚起	この記号は危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。	(例)  (感電注意)
	行為の禁止	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。	(例)  (分解禁止)
	行為の強制	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。	(例)  (プラグを抜け)

(ユーザーズガイドでの表示例)

注意を促す記号	危険に対する注意の内容	危険の程度を表す用語
	指定以外のコンセントに差し込まない 指定された電圧でアース付きのコンセントをお使いください。指定以外の電源を使うと火災や漏電の原因となります。	 注意

本書と警告ラベルで使用する記号とその内容

注意の喚起

	感電のおそれのあることを示します。		特定しない一般的な注意・警告を示します。
	発煙または発火のおそれがあることを示します。		

行為の禁止

	本製品を分解・修理・改造しないでください。感電や火災のおそれがあります。		水や液体がかかる場所で使用しないでください。水にぬらすと感電や発火のおそれがあります。
	指定された場所には触らないでください。感電や火傷などの傷害のおそれがあります。		特定しない一般的な禁止を示します。
	ぬれた手で触らないでください。感電するおそれがあります。		

行為の強制

	本製品の電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電のおそれがあります。		特定しない一般的な使用者の行為を指示します。説明に従った操作をしてください。
	必ず接地してください。感電や火災のおそれがあります。		

安全上のご注意

本製品を安全にお使いいただくために、ここで説明する注意事項をよく読んでご理解し、安全にご活用ください。記号の説明についてはiiiページの『安全にかかわる表示について』の説明を参照してください。

全般的な注意事項

 警告	
	<p>人命に関わる業務や高度な信頼性を必要とする業務には使用しない</p> <p>本製品は、医療機器・原子力設備や機器、航空宇宙機器・輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みやこれらの機器の制御などを目的とした使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本製品を使用した結果、人身事故、財産損害などが生じても弊社はいかなる責任も負いかねます。</p>
	<p>煙や異臭、異音が生じたまま使用しない</p> <p>万一、煙、異臭、異音などが生じた場合は、ただちに電源をOFFにして電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、お買い求めの販売店または保守サービス会社にご連絡ください。そのまま使用すると火災の原因となります。</p>
	<p>針金や金属片を差し込まない</p> <p>通気孔やUSBコネクタ等のすきまから金属片や針金などの異物を差し込まないでください。感電の危険があります。</p>

 注意	
	<p>海外で使用しない</p> <p>本製品は、日本国内専用の装置です。海外では使用できません。この装置を海外で使用すると火災や感電の原因となります。</p>
	<p>本製品内に水や異物を入れない</p> <p>本製品内に水などの液体、ピンやクリップなどの異物を入れないでください。火災や感電、故障の原因となります。もし入ってしまったときは、すぐ電源をOFFにして、電源プラグをコンセントから抜いてください。分解しないで販売店または保守サービス会社にご連絡ください。</p>

電源・電源コードに関する注意事項



ぬれた手で電源プラグを持たない

ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。



指定以外のコンセントに差し込まない

指定された電圧でアース付のコンセントをお使いください。指定以外で使うと火災や漏電の原因となります。また、延長コードが必要となるような場所には設置しないでください。本製品の電源仕様に合っていないコードに接続すると、コードが過熱して火災の原因となります。



たこ足配線にしない

コンセントに定格以上の電流が流れることによって、過熱して火災の原因となるおそれがあります。



中途半端に差し込まない

電源プラグは根元までしっかりと差し込んでください。中途半端に差し込むと接触不良のため発熱し、火災の原因となることがあります。また差し込み部にほこりがたまり、水滴などが付くと発熱し、火災の原因となるおそれがあります。



指定以外の電源コードを使わない

本製品に添付されている電源コード以外のコードを使わないでください。電源コードに定格以上の電流が流れると、火災の原因となるおそれがあります。また、電源コードの破損による感電や火災を防止するために次の注意をお守りください。

- コード部分を引っ張らない。
- 電源コードを折り曲げない。
- 電源コードをねじらない。
- 電源コードを踏まない。
- 電源コードを束ねたまま使わない。
- 電源コードをステープラ等で固定しない。
- 電源コードをはさまない。
- 電源コードに薬品類をかけない。
- 電源コードの上にものを載せない。
- 電源コードを改造・加工・修復しない。
- 損傷した電源コードを使わない。(損傷した電源コードはすぐ同じ規格の電源コードと取り替えてください。交換に関しては、お買い求めの販売店または保守サービス会社にご連絡ください。)



添付の電源コードを他の装置や用途に使用しない

添付の電源コードは本製品に接続し、使用することを目的として設計され、その安全性が確認されているものです。決して他の装置や用途に使用しないでください。火災や感電の原因となるおそれがあります。



ケーブル部分を持って引き抜かない

ケーブルを抜くときはコネクタ部分を持ってまっすぐに引き抜いてください。ケーブル部分を持って引っ張ったりコネクタ部分に無理な力を加えたりするとケーブル部分が破損し、火災や感電の原因となります。

設置・移動・保管・接続に関する注意事項

 注意	
	<p>指定以外の場所に設置・保管しない</p> <p>本製品を次に示すような場所や本書で指定している場所以外に置かないください。火災の原因となるおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ほこりの多い場所。 ● 給湯器のそばなど湿気の多い場所。 ● 直射日光が当たる場所。 ● 不安定な場所。
	<p>腐食性ガスの存在する環境で使用しない</p> <p>腐食性ガス(塩化ナトリウムや二酸化硫黄、硫化水素、二酸化窒素、塩素、アンモニア、オゾンなど)の発生する場所に設置し、使用しないでください。また、ほこり中に腐食を促進する成分(硫黄など)や導電性の金属などが含まれている環境へも設置しないでください。装置内部のプリント板が腐食・ショートし、火災の原因となるおそれがあります。ご不明の点はお買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。</p>

お手入れに関する注意事項

 警告	
	<p>自分で分解・修理・改造はしない</p> <p>本書に記載されている場合を除き、絶対に分解したり、修理・改造を行ったりしないでください。本製品が正常に動作しなくなるばかりでなく、感電や火災の危険があります。</p>
	<p>プラグを差し込んだまま取り扱わない</p> <p>お手入れや装置に接続されているケーブルの取り付け/取り外しは、本製品の電源をOFFにして、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。たとえ電源をOFFにしても、電源コードを接続したまま本製品内の部品に触ると感電するおそれがあります。</p> <p>また、電源プラグはときどき抜いて、乾いた布でほこりやゴミをよくふき取ってください。ほこりがたまったまま、水滴などが付くと発熱し、火災の原因となるおそれがあります。</p>

運用中の注意事項

注意



雷が鳴ったら触らない

雷が発生しそうなときは電源プラグをコンセントから抜いてください。また電源プラグを抜く前に、雷が鳴りだしたら、ケーブル類も含めて本製品には触れないでください。火災や感電の原因となります。



ペットを近づけない

本製品にペットなどの生き物を近づけないでください。排泄物や体毛が本製品内部に入って火災や感電の原因となります。

取り扱い上のご注意

本製品を正しく動作させるために次に示す注意事項をお守りください。これらの注意を無視した取り扱いをすると本製品の誤動作や故障の原因となります。

- 本製品の電源を一度OFFにした後、再びONにするときは10秒以上経過してからにしてください。無停電電源装置(UPS)に接続している場合も10秒以上経過してからONになるようにスケジュールリングの設定をしてください。
- 本製品を移動する前に電源をOFFにして、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 定期的に本製品を清掃してください。定期的な清掃はさまざまな故障を未然に防ぐ効果があります。
- 落雷等が原因で瞬間的に電圧が低下することがあります。この対策として無停電電源装置等を使用することをお勧めします。
- 本製品を正しく動作させるためにも室温を保てる場所に保管することをお勧めします。装置を保管する場合は、保管環境条件(温度：-20℃～60℃、湿度：20%～80%)を守って保管してください(ただし、結露しないこと)。
- 本製品のそばでは携帯電話やPHS、ポケットベルの電源をOFFにしておいてください。電波による誤動作の原因となります。
- 本製品は筐体全体を使って自然対流による放熱をしているため、筐体に物を載せたり、物と接触させたりしないでください。
- インタフェースケーブルの取り扱いや接続について次の注意をお守りください。
 - － 破損したケーブルコネクタを使用しない。
 - － ケーブルを踏まない。
 - － ケーブルの上にものを載せない。
 - － ケーブルの接続がゆるんだまま使用しない。
 - － 破損したケーブルを使用しない。

機能仕様に関する注意事項について

本製品を使用するに当たり、以下の機能仕様について、あらかじめご了承ください。

- US110Eの画面表示性能を最大限に引き出すために、US110Eの画面色設定と接続の画面色設定を両方ともハイカラー(16ビット)に設定してのご使用を推奨します。
- 動画高速化機能、ソフトフォン機能、コムドア機能は、使用できません。

動作保証されない機能について

本ガイドには以下の機能に関する記載がありますが、これらの機能につきましては現時点で動作を保証しておりません。これらは将来の機能強化時の参考とするために記載しています。あらかじめご了承ください。

- ダイアルアップ、PPPoE、シリアル通信、PPTP
- ボリューム&サウンドの「通知」設定
- ネットワークとダイアルアップ接続の「アダプタの詳細設定」
- 地域と言語の設定のカスタマイズ設定

はじめに

このたびは、本製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

本製品は、NECが提供する仮想PC製品に接続して使用するシンクライアント装置です。

本製品の持つ機能を最大限に引き出すためにも、ご使用になる前に本書をよくお読みになり、装置の取り扱いを十分にご理解ください。

本書について

本書は、本製品を正しくセットアップし、使用できるようにするための手引きです。セットアップを行うときや日常使用する上で、わからないことや具合の悪いことが起きたときは、取り扱い上の安全性を含めてご利用ください。

本書は常に本製品のそばに置いていつでも見られるようにしてください。

本文中の記号について

本書では巻頭で示した安全にかかわる注意記号の他に3種類の記号を使用しています。これらの記号と意味をご理解になり、本製品を正しくお取り扱いください。

 重要	本製品の取り扱いや、ソフトウェアの操作で守らなければならない事柄や特に注意すべき点を示します。
 チェック	本製品やソフトウェアを操作する上で確認をしておく必要がある点を示します。
 ヒント	知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。

本書の構成について

本書は4つの章から構成されています。それぞれの章では次のような説明が記載されています。なお、巻末には付録・索引があります。必要に応じてご活用ください。



「使用上のご注意」をはじめにご覧ください

本編をお読みになる前に必ず本書の巻頭に記載されている「使用上のご注意」をお読みください。「使用上のご注意」では、本製品を安全に、正しくお使いになるために大切な注意事項が記載されています。

第1章 US110Eについて

本製品の設置・接続、シャットダウンの方法などについて説明します。

第2章 各種機能の利用

コントロールパネルの使用方法、初期設定、ネットワークの設定などについて説明しています。

第3章 応用機能の利用

応用機能について説明しています。

第4章 運用・保守

日常の保守、トラブルシューティングについて説明しています。「故障かな？」と思ったときは、装置の故障を疑う前に参照してください。

付属品の確認

梱包箱の中には、本製品以外にいろいろな付属品が入っています。添付の構成品チェックシートを参照してすべてがそろっていることを確認し、それぞれ点検してください。万一足りないものや損傷しているものがある場合は、販売店に連絡してください。

第三者への譲渡について

本製品または、本製品に添付されているものを第三者に譲渡(または売却)するときは、次の注意を守ってください。

- 本製品について

第三者へ譲渡(または売却)する場合には、使用上のご注意を一緒にお渡しください。

消耗品・装置の廃棄について

- 本製品およびオプションの装置などの廃棄については各自治体の廃棄ルールに従ってください。なお、本製品に添付の電源コードについても他の装置への転用を防ぐために、本製品と一緒に廃棄してください。詳しくは、各自治体へお問い合わせください。



USBメディア、その他書き込み可能なメディア(CD-R/CD-RWなど)に保存されているデータは、第三者によって復元や再生、再利用されないようお客様の責任において確実に処分してから廃棄してください。個人のプライバシーや企業の機密情報を保護するために十分な配慮が必要です。

目次

 使用上のご注意 - 必ずお読みください -	iii
安全にかかわる表示について	iii
本書と警告ラベルで使用する記号とその内容	iv
安全上のご注意	v
全般的な注意事項	v
電源・電源コードに関する注意事項	vi
設置・移動・保管・接続に関する注意事項	vii
お手入れに関する注意事項	vii
運用中の注意事項	viii
取り扱い上のご注意	ix
機能仕様に関する注意事項について	x
動作保証されない機能について	x
はじめに	xi
本書について	xii
本文中の記号について	xii
本書の構成について	xiii
付属品の確認	xiv
第三者への譲渡について	xv
消耗品・装置の廃棄について	xvi

1 US110Eについて 1

各部の名称と機能	2
装置前面	2
装置背面	3
設置と接続	4
設置	4
N8120-102 縦置き・LCD背面ブラケット(オプション)を使用した設置	6
N8120-103 LCD背面取付位置調整板(オプション)を使用した設置	7
接続	8
US110Eの利用	10
1. 基本構成	10
2. 拡張1	11
3. 拡張2	12
4. VPN	13
US110Eの基本的な操作方法	14
ネットワークを設定する	16
ディスプレイ解像度を設定する	17
仮想PC接続先を設定する	18
仮想PCに接続する	19
仮想PCをログオフする	20
US110Eをシャットダウンする	21

2 各種機能の利用 23

ターミナル接続マネージャの使用法	25
RDP接続、ICA接続の作成、変更	27
RDP接続構成の編集	28
ICA接続構成の編集	33
コントロールパネルの使用法	35
キーボード	38
マウス	39
ダブルクリック	39
マウスオプション	39
画面	40
背景	40
表示	41
バックライト	43
ボリューム&サウンド	44
ボリューム	44
サウンド	45
日付/時刻	46
ネットワーク	47
IPアドレスの設定	47
プリンタ	48
ローカルプリンタの追加	48
ネットワークプリンタの追加	54
プリンタのプロパティ	57
プリンタの削除	57
prnlist.txtの作成	57
地域と言語の設定	60
地域	60
ユーザーインターフェイス言語	60
入力言語	60
ターミナルサーバのクライアントライセンス	61
システム	62
情報	62
メモリ	62
デバイス名	63
証明書	64
ICAクライアント	67
ショートカットキー	67
基本設定	68
サーバーの場所	69
ファイヤーウォールの設定	70
ネットワークユーティリティ	72
ping診断ユーティリティ	73
ipconfigユーティリティ	73
netstatユーティリティ	73
SNTP	74
アップデート	75
アップデート	75
アップデート設定	77
ファイルアップロード	78
ログオン設定	80
ログオン設定情報	80
ログオン設定	81
設定初期化	82
管理者パスワード設定	83
ユーザモード設定	84

ユーザモード切り替え	85
シャットダウンモード設定	86
SSCエージェント	87
アプリケーションインストーラ	88
ロギング	90
エラーレポート	92
画面解像度設定	94

3 応用機能の利用 95

ターミナル接続マネージャのログオン	96
パスワードの変更	97
ユーザ・プロファイル	98
ログオフ	99
コントロールパネルの管理者モードとユーザモード	100
管理者モード	100
ユーザモード	100
ソフトウェアアップデート	101
1. ネットワーク経由のソフトウェアアップデート	101
2. 事前設定	101
3. ソフトウェアアップデートの実行	105
4. US110E ソフトウェアバージョンの確認方法	105
アプリケーションインストーラを使用したソフトウェアアップデート	106
USBストレージからのアップデート	106
VPN接続について	107
VPN接続のシステム構成図	107
US110EのVPN設定方法	109
US110EのVPN接続方法	112
RDP暗号化レベルの設定	112

4 運用・保守 113

クリーニング	114
本体のクリーニング	114
キーボード／マウスのクリーニング	115
トラブルシューティング	116
US110E起動に関するトラブル	116
ログオン画面でのトラブル	116
ターミナル接続マネージャへのログオンに関するトラブル	116
複数のシンクライアントを組み合わせる場合のトラブル	116
RDP/ICA/SNTP等の接続でのトラブル	117
ICAクライアントに関するトラブル	117
USBでのトラブル	118
付録A 仕様	119
索引	120

~Memo~

1 US110Eについて

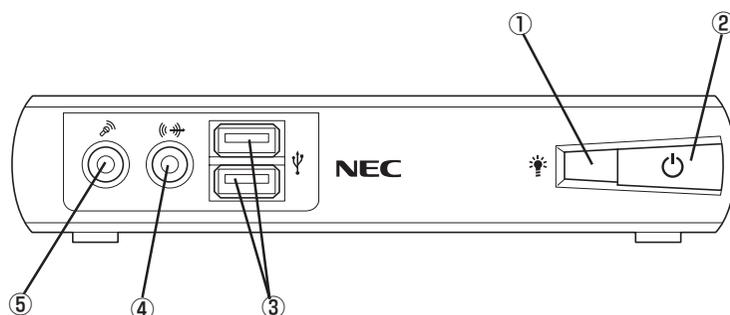
本製品の設置・接続、シャットダウンの方法などについて説明します。

- 各部の名称と機能(→2ページ) 本製品の各部の名称と機能について説明します。
- 設置と接続(→4ページ) 本製品の設置と接続について説明します。
- US110Eの利用(→10ページ) 本製品のシステム構成、基本的な操作方法、仮想PCへの接続方法、シャットダウンの方法などについて説明します。

各部の名称と機能

本製品の各部の名称とその機能を次に示します。ここで説明していない箇所は本製品では使用しません。

装置前面



① POWERランプ(緑色/アンバー色)

本体の電源がONの間、ランプが緑色に点灯し、省電力モードの時はアンバー色に点灯する。

② POWERスイッチ

電源をON/OFFするスイッチ。一度押すとPOWERランプが点灯し、ONの状態になる。もう一度押すとシャットダウン確認のメッセージを表示する。4秒以上押し続けると強制的にシャットダウンする。

③ USBコネクタ

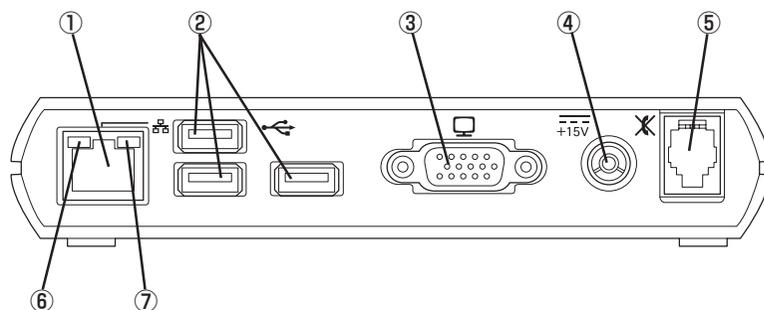
USBインターフェースに対応している装置と接続する(→9ページ)。

④ ラインアウトコネクタ

ラインイン端子を持つ機器(ヘッドホンまたはPCスピーカーなど)と接続する(→9ページ)。

⑤ マイクロホンコネクタ

マイクロホンと接続する(→9ページ)。



① LANコネクタ

1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-Tと接続するコネクタ(→9ページ)。LAN上のネットワークシステムと接続する。

② USBコネクタ

USBインタフェースに対応している装置と接続する(→9ページ)。

③ モニタコネクタ

ディスプレイ装置と接続する(→9ページ)。

④ 電源コネクタ(15V)

添付のACアダプタ(15V)を接続するコネクタ(→9ページ)。

⑤ RJ-22コネクタ

本装置では使用しません。

⑥ ACTランプ(緑色)

アクティブな状態にあるときに点滅する。

⑦ SPEEDランプ(黄色/緑色)

ネットワークポートの通信速度を示すランプ

設置と接続

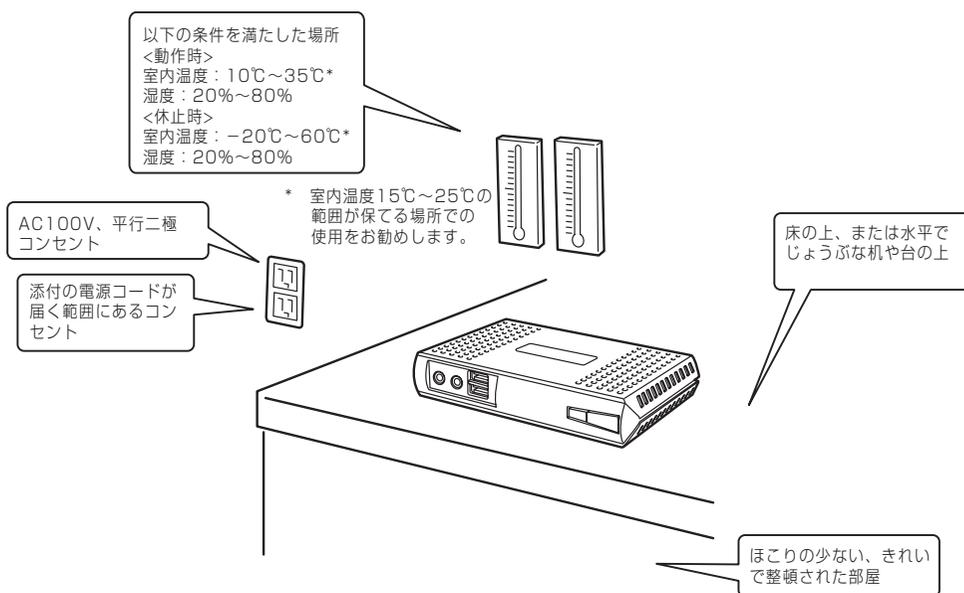
本製品の設置および接続の方法について以下に説明します。

設置

本製品は卓上に設置して使用します。

 注意	
	<p>本製品を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none">● 指定以外の場所に設置しない

設置にふさわしい場所は次のとおりです。

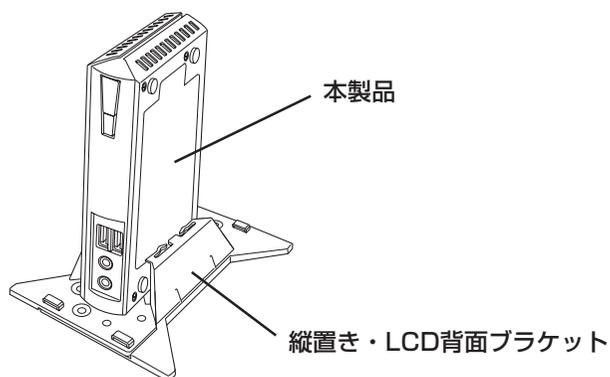


次に示す条件に当てはまるような場所には、本製品を設置しないでください。これらの場所に本製品を設置すると、誤動作の原因となります。

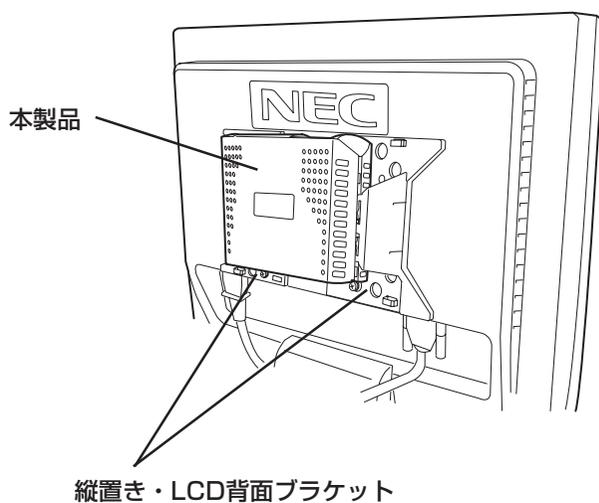
- 温度変化の激しい場所(暖房器、エアコン、冷蔵庫などの近く)。
- 強い振動の発生する場所。
- 腐食性ガスの発生する場所(大気中に硫黄の蒸気が発生する環境下など)、薬品類の近くや薬品類がかかるおそれのある場所。
- 帯電防止加工が施されていないじゅうたんを敷いた場所。
- 物の落下が考えられる場所。
- 電源コードまたはインタフェースケーブルを足で踏んだり、引っ掛けたりするおそれのある場所。
- 強い磁界を発生させるもの(テレビ、ラジオ、放送/通信用アンテナ、送電線、電磁クレーンなど)の近く(やむを得ない場合は、保守サービス会社に連絡してシールド工事などを行ってください)。
- 本体の電源コードを他の接地線(特に大電力を消費する装置など)と共用しているコンセントに接続しなければならない場所。
- 電源ノイズ(商用電源をリレーなどでON/OFFする場合の接点スパークなど)を発生する装置の近くには設置しないでください。(電源ノイズを発生する装置の近くに設置するときは電源配線の分離やノイズフィルタの取り付けなどを保守サービス会社に連絡して行ってください。)
- 本製品は筐体全体を使って自然対流による放熱をしているため、筐体に物を載せたり、物と接触させたりしないでください。

N8120-102 縦置き・LCD背面ブラケット(オプション)を使用した設置

N8120-102 縦置き・LCD背面ブラケットを使用した設置方法については、次の2つの設置方法があります。詳細については、N8120-102 縦置き・LCD背面ブラケットに添付の取扱説明書をご覧ください。



本製品を卓上に縦置きに設置した場合



縦置き・LCD背面ブラケットを使用して本製品をLCD背面に設置した場合

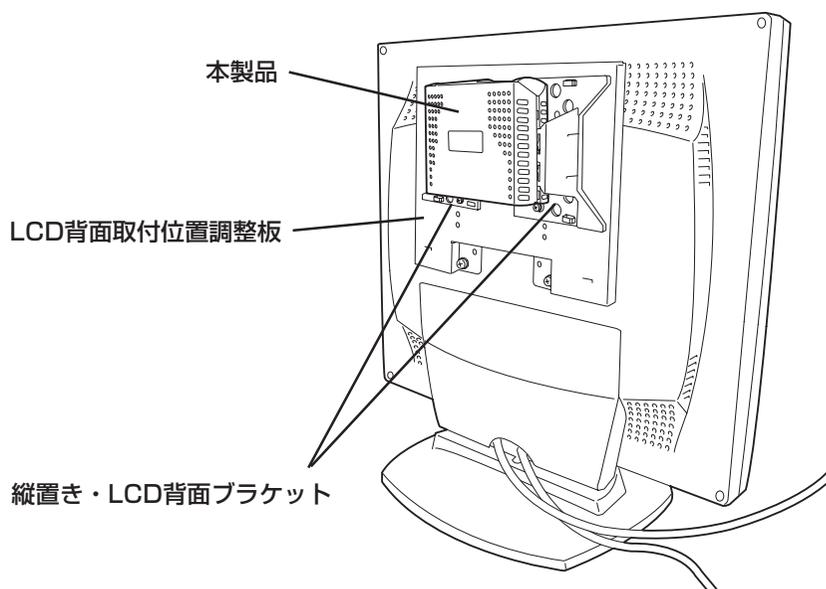
N8120-103 LCD背面取付位置調整板(オプション)を使用した設置

LCD背面に本製品を設置する際、任意の位置に設置したい場合は、N8120-102 縦置き・LCD背面ブラケットではなく、N8120-103 LCD背面取付位置調整板にて設置してください。

N8120-103 LCD背面取付位置調整板(オプション)を使用した設置方法については、N8120-103 LCD背面取付位置調整板に添付の取扱説明書をご覧ください。



N8120-103 LCD背面取付位置調整板(オプション)を使用した設置を行う場合、N8120-102 縦置き・LCD背面ブラケット(オプション)も同時に必要となります。併せてご購入ください。



接続

本製品をネットワークに接続します。
ネットワークケーブルを接続してから添付のACアダプタの電源コードを本製品に接続し、電源プラグをコンセントに接続します。

警告



本製品を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- めれた手で電源プラグを持たない

注意



本製品を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

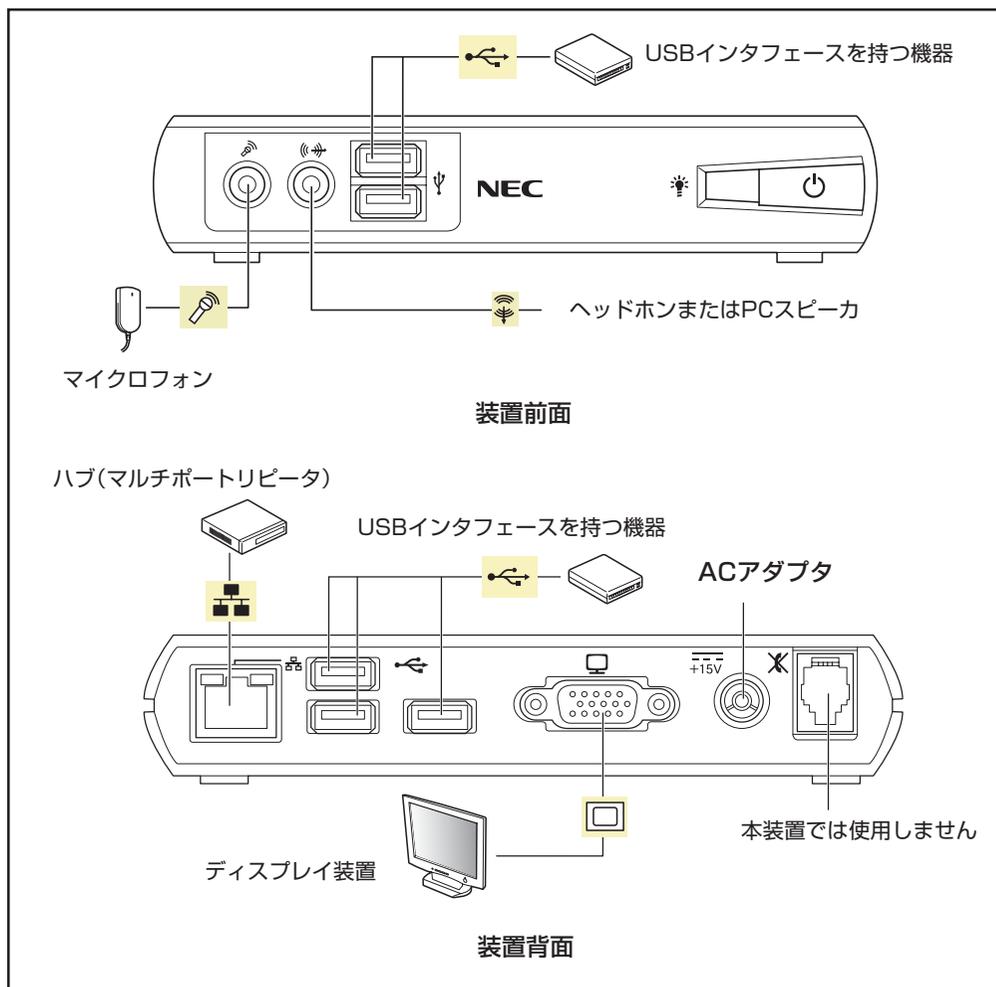
- 指定以外のコンセントに差し込まない
- たこ足配線にしない
- 中途半端に差し込まない
- 指定以外の電源コードを使わない
- プラグを差し込んだままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない
- 指定以外のインタフェースケーブルを使用しない



重要

- 本製品および接続する周辺機器の電源をOFFにしてから接続してください。ONの状態のまま接続すると誤動作や故障の原因となります。
- サードパーティの周辺機器およびインタフェースケーブルを接続する場合は、お買い求めの販売店でそれらの装置が本製品で使用できることをあらかじめ確認してください。サードパーティの装置の中には本製品で使用できないものがあります。サードパーティの周辺機器、またはNECが認定していない装置やインタフェースケーブルを使用したために起きた本製品の故障については、その責任を負いかねますのでご了承ください。
- LANコネクタに接続したケーブルを抜くときは、コネクタのツメが手では押しにくくなっているため、マイナスドライバーなどを使用してツメを押して抜いてください。その際に、マイナスドライバーなどがLANコネクタやその他のコネクタを破損しないよう十分に注意してください。
- ヘッドセットなどを接続する装置背面のRJ-22コネクタにNECが指定する周辺機器以外の機器を接続しないでください。
- ヘッドセットなどを接続する装置背面のRJ-22コネクタを公衆回線には接続しないでください。

ケーブルを接続した後は、リピータイでケーブルが絡まないように束ねてください。



US110Eの利用

US110Eのシステム構成、基本的な操作方法、仮想PCへの接続方法、シャットダウンの方法などについて以下に説明します。

 **チェック** ここに記載するシステム構成では、ハブ、ルータ等のネットワーク機器の記載は省略しています。

US110Eは、仮想PCに接続するシンククライアント装置です。

シンククライアントシステムの最小構成は、US110Eと仮想PCをホストするサーバのみで構成できます(1. 基本構成)。

基本構成を拡張して、DHCPサーバ、ダウンロードサーバ(FTP/HTTPサーバ)を利用して、シンククライアントシステムの保守性を向上させることができます(2. 拡張1)。

拡張構成として、VPCCの管理ツール(SSC)を使用することもできます(3. 拡張3)。

仮想PCに接続するネットワーク環境としてVPNを使用することもできます(4. VPN)。

1. 基本構成

シンククライアントシステムの最小構成は、US110Eと仮想PCをホストするサーバのみで構成できます。US110Eの初期設定として、ネットワークの設定を行い、ターミナル接続マネージャで仮想PCの接続先を設定すれば、仮想PCに接続できます。

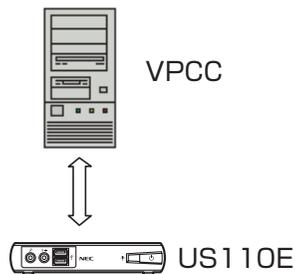


図1-1 基本構成

● VPCC(Virtual PC Center)

仮想PCをホストするサーバです。仮想PCとして、Windows XP Professionalをホストします。US110EはVPCC以外にも、Windows Server 2003、Citrix Presentation Server 4.5への接続をサポートします。

2. 拡張1

基本構成を拡張して、DHCPサーバ、ダウンロードサーバ(FTP/HTTPサーバ)を利用して、シンクライアントシステムの保守性を向上させることができます。

US110Eは、設定情報をDHCPサーバ、ダウンロードサーバ(FTP/HTTPサーバ)から取得することができます。

DHCPを使用するネットワークでは、US110E用にDHCPオプション情報を設定して、ダウンロードサーバにUS110Eの設定情報を配置することで、US110Eを個々に設定することなく、複数のUS110Eを一括設定することができます。

US110Eは電源オフ時に時刻を保持しません。US110Eの時刻を起動時に合わせるようにするにはSNTPサーバを使用します。

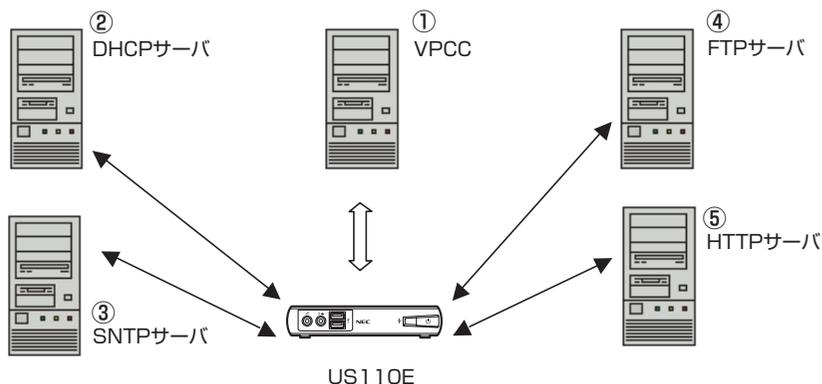


図1-2 拡張1

① VPCC(Virtual PC Center)

② DHCPサーバ

US110EのIPアドレス他の情報をDHCPサーバから取得します。ダウンロードサーバの情報をDHCPサーバから取得することもできます。

③ SNTPサーバ

US110EにSNTPサーバの設定を行うと、起動時にSNTPサーバと時刻同期します。

④ FTPサーバ(ダウンロードサーバ/アップロードサーバ)

US110Eは、US110E装置の設定情報や仮想PCの接続先リストをダウンロードサーバから取得して使用することができます。また、US110Eのソフトウェアのアップデートもダウンロードサーバから取得します。US110Eのファイルアップロード機能を使って、1台のUS110Eで設定した設定情報(common.txt)や仮想PCの接続先リスト(ユーザ名.txt)をFTPサーバにアップロードすることができます。

⑤ HTTPサーバ(ダウンロードサーバ)

US110Eのダウンロードサーバとして、HTTPサーバを使用することもできます。US110Eは、US110E装置の設定情報や仮想PCの接続先リストをダウンロードサーバから取得して使用することができます。また、US110Eのソフトウェアのアップデートもダウンロードサーバから取得します。HTTPサーバに保存されている接続先リスト(ユーザ.reg)にアクセスし、そのユーザでターミナル接続マネージャへログオンすることができます。



チェック

- ダウンロードサーバとの通信プロトコルは、FTPまたは、HTTPのどちらかを選択して使用します。HTTPS等の他のプロトコルは使用できません。
- FTPサーバはUS110Eのダウンロードサーバ、アップロードサーバの両方の用途に使用できます。HTTPサーバは、US110Eのダウンロードサーバとして使用できますが、ファイルアップロードのサーバには使用できません。

3. 拡張2

US110Eと、VPCCの管理ツール(SSC)と連携して、シンクライアントシステムの保守性を向上させることができます。US110Eでは、SSCと連携する機能として、クライアント管理オプション(CMO)とDPMの各エージェント機能に対応します。



チェック

DPMはVPCC 2.0以降からの対応となります。

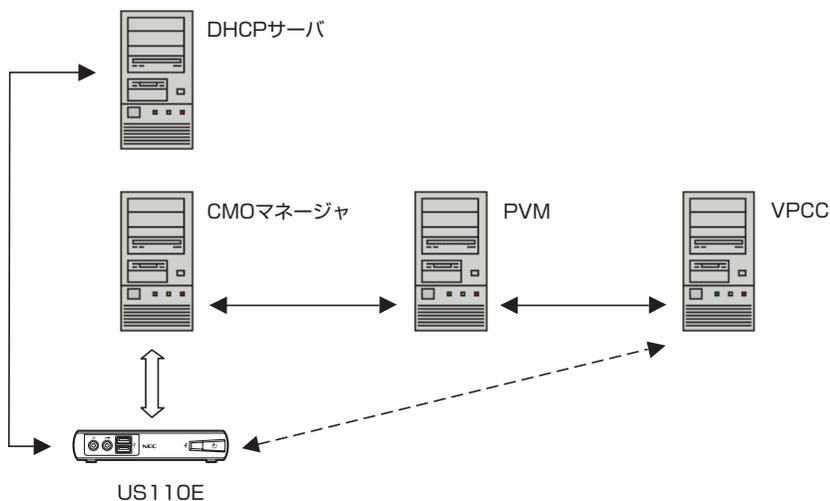


図1-3 拡張2

- **VPCC(Virtual PC Center)**

- **DHCPサーバ**

US110EのIPアドレス他の情報をDHCPサーバから取得します。DHCPオプションを使用すると、CMOマネージャのサーバアドレスを自動で取得するようにUS110Eを設定できます。

- **PVM(Provisioning Manager)**

VPCCで動作する仮想PCを管理するサーバです。CMOマネージャがPVMと連携して動作します。

- **CMOマネージャ**

クライアント管理オプションのサーバ機能です。US110Eから接続する仮想PCの接続先情報を一元管理します。クライアント管理オプションを使用すると、ユーザはUS110E上で使用できる仮想PCの一覧から選択して、仮想PCに接続することができます。

4. VPN

仮想PCに接続するネットワーク環境としてVPNを使用することができます。

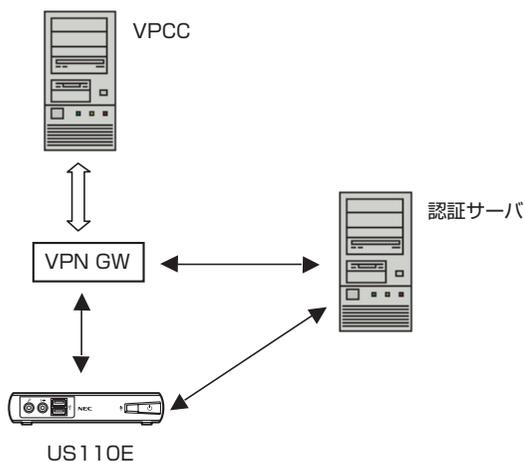


図1-4 VPN

- **VPCC(Virtual PC Center)**

- **VPN GW**

US110Eでは、VPNのプロトコルとしてL2TPが使用できます。US110Eを接続するVPNゲートウェイにてL2TPを設定してください。

- **認証サーバ**

VPN GWからの認証要求に応答して、接続ユーザの認証を行います。US110Eでは、認証サーバに送信するアカウントの入力を行います。

US110Eの基本的な操作方法

US110Eは仮想PCに接続するためのシンクライアントとして、US110Eに関する設定、操作をできるだけ少なくするように設計しています。

US110Eでは、仮想PCの接続メニューであるターミナル接続マネージャとUS110Eの設定を行うコントロールパネルから基本的な操作を行います。

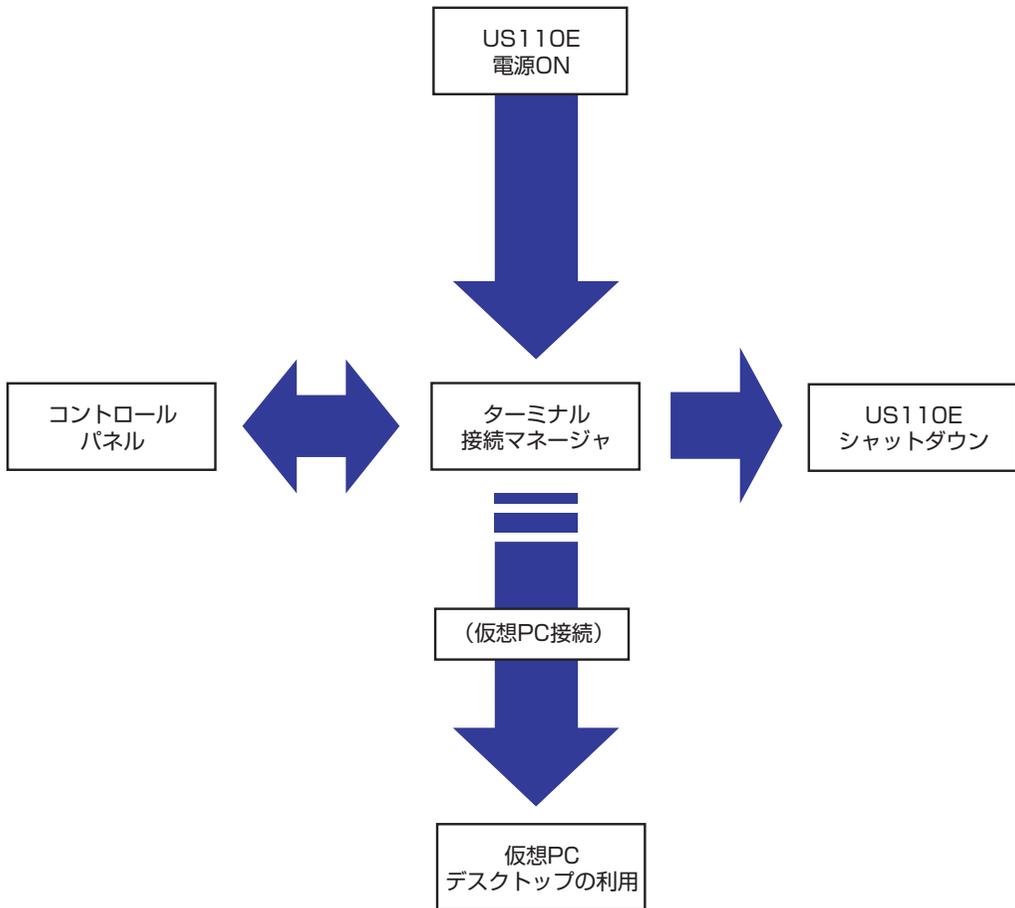


図1-5 US110Eの基本操作

US110Eでは、仮想PCへの接続メニューとして、ターミナル接続マネージャを使用します。システム管理者から割り当てられた仮想PCのアドレス、接続情報を、ターミナル接続マネージャの構成タブで設定します。設定した接続エントリを保存してスタートアップに指定すると、US110Eの電源をONにした後、自動で仮想PCに接続することができます。

US110Eの設定を変更するにはコントロールパネルを使用します。コントロールパネルは、ターミナル接続マネージャから開くことができます。ターミナル接続マネージャの構成タブの表示有無と、コントロールパネルの各項目の表示有無は、管理者が利用者向けにカスタマイズすることができます。

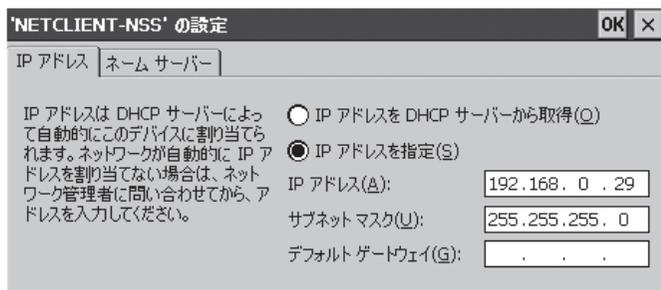
US110Eを最初に起動すると、初期設定が実行されます。US110E個々の名前は初期設定され、ネットワークの設定はDHCPを使用してネットワークアドレスを取得するように初期設定されます。初期設定のままでは修正する必要がなければ、コントロールパネルで他に設定する項目はありません。ターミナル接続マネージャから仮想PCに接続してください。US110Eの2回目以降の起動では、管理者の設定によって、US110E設定情報の読み込みや仮想PC接続先を取得するためのログオンダイアログの表示が、ターミナル接続マネージャの表示の前に行われます。

US110Eの操作を少なくすることで、シンクライアントシステムをわかりやすく操作して頂くことを目指しています。

ネットワークを設定する

US110Eの初期設定では、ネットワーク設定は、IPアドレスをDHCPサーバーから取得するように設定されています。ネットワーク設定を変更する場合は、以下の手順で変更してください。

1. 「ターミナル接続マネージャ」から「コントロールパネル」ボタンを押して、「コントロールパネル」を表示します。
2. 「ネットワークとダイヤルアップ接続」のアイコンをダブルクリックします。
3. 「NETCLIENT-NSS」のアイコンをダブルクリックします。
4. 「IPアドレスを指定」を選択してから、IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイの設定を行います。DNS、WINSの設定は、「ネームサーバー」タブで行います。



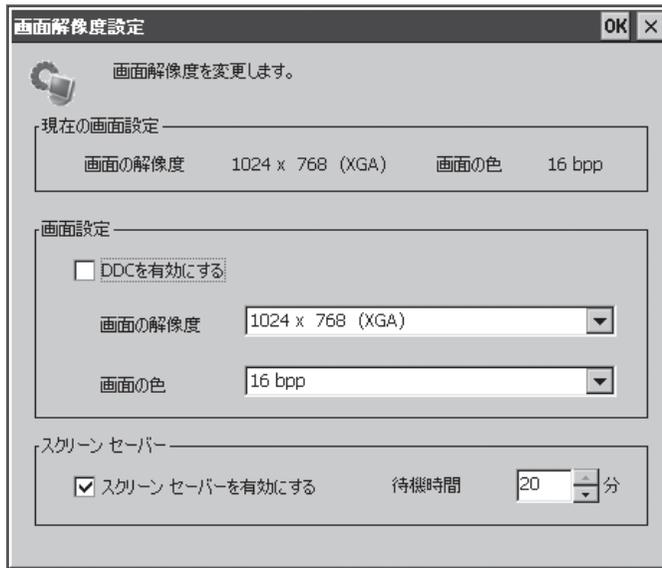
-  **チェック** ターミナル接続マネージャの「構成」タブには「コントロールパネル」ボタンはありません。コントロールパネルを表示する場合は、「接続エントリ」を選択してください。

ディスプレイ解像度を設定する

ご使用になるディスプレイに合った解像度を設定します。

1. 「ターミナル接続マネージャ」から「コントロールパネル」ボタンを押して、「コントロールパネル」を表示します。
2. 「画面解像度設定」のアイコンをダブルクリックします。
3. 「画面設定」の「画面の解像度」、「画面の色」をプルダウンメニューから選択します。
4. 「OK」を押して終了します。

US110Eが設定された解像度で再起動されます。



- 画面設定で「DDCを有効にする」を指定すると、ディスプレイから自動的に最適な画面設定を取得します(※)。
 - US110Eの画面表示性能を最大限に引き出すために、US110Eの画面の色の設定と、仮想PC接続の画面色設定を両方とも16bppに設定してのご使用を推奨します。
- (※) お使いになるディスプレイがDDCに対応している必要があります。

仮想PC接続先を設定する

接続する仮想PCの接続エントリを作成します。

1. 「ターミナル接続マネージャ」から「構成」タブを選択します。
2. 「追加」ボタンを選択します。
3. 「新しい接続エントリ」の画面が表示されるので、プルダウンメニューから「Microsoft リモート デスクトップ クライアント」を選択して、「OK」ボタンを押してください。



4. 接続先の名前となる接続エントリ名と、接続する仮想PCのコンピュータ名またはIPアドレスを入力します。
5. 「次へ」ボタンを選択して、最後に「終了」ボタンを選択します。



チェック

設定情報を変更する場合は、「編集」ボタンをクリックして「接続の編集」ダイアログを表示してください。仮想PC接続の画面色は「接続の編集」ダイアログの中で変更できます。

仮想PCに接続する

作成した接続エントリを使用して、仮想PCに接続します。

1. 「ターミナル接続マネージャ」の「接続エントリ」タブを選択します。
2. 接続エントリ名の一覧から、接続する仮想PCを選択し、「接続」ボタンを選択してください。



3. 仮想PCに接続され、仮想PCのログインダイアログが表示されます。
4. 仮想PCにログインした後は、仮想PCのデスクトップが表示され、スタートメニューから各種プログラムを使用することができます。



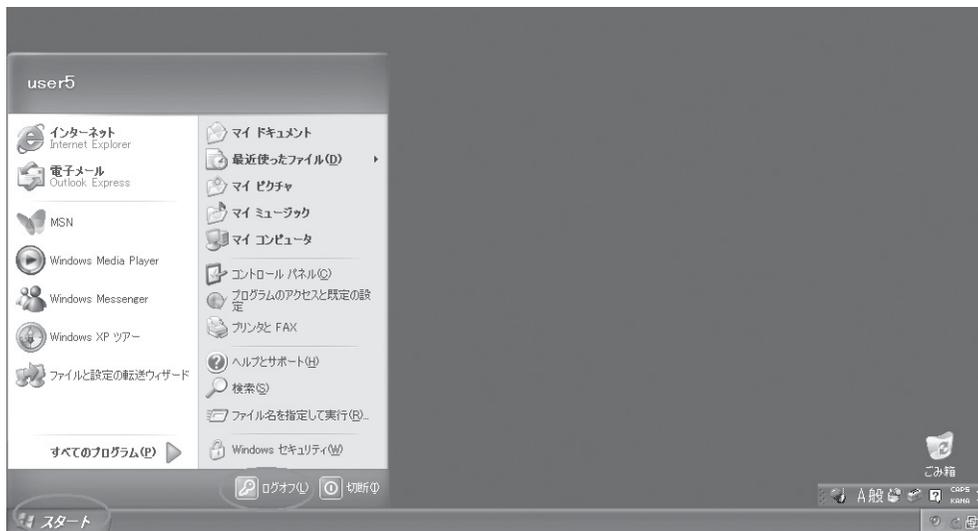
- 仮想PCのデスクトップでは、以下のショートカットキーが使用できます。

ショートカットキー	機能
Alt + PageUp	プログラムを左から右に切り替える
Alt + PageDown	プログラムを右から左に切り替える
Alt + Insert	起動した順にプログラムを切り替える
Alt + Home	スタートメニューを表示する
Ctrl + Alt + テンキーの「+」	仮想PCのデスクトップのスナップショットをクリップボードにコピーする
Ctrl + Alt + テンキーの「-」	仮想PCのデスクトップのアクティブウィンドウのスナップショットをクリップボードにコピーする
Ctrl + Alt + End	US110のターミナル接続マネージャを表示する
Ctrl + Alt + ↑ (または ↓)	US110の接続している他の仮想PCのデスクトップを表示する

- US110Eでは、仮想PCデスクトップの全画面表示をサポートしています。仮想PCデスクトップのウィンドウ表示はサポートしていません。そのためショートカットキー「Ctrl+Alt+Break」は使用しないでください。

仮想PCをログオフする

仮想PCでの作業を終える場合は、仮想PCのタスクバーから「スタート」「ログオフ」を選択します。



仮想PCからログオフすると、US110Eのターミナル接続マネージャに戻ります。

US110Eをシャットダウンする

ターミナル接続マネージャの「接続エントリ」タブにある、「シャットダウン」ボタンを選択して、US110Eをシャットダウンします。



チェック

ターミナル接続マネージャの「構成」タブには「シャットダウン」ボタンはありません。シャットダウンする場合は、「接続エントリ」を選択してください。

~Memo~

2 各種機能の利用

各種機能の利用について説明しています。

ターミナル接続マネージャの使用方法(→25ページ)	ターミナル接続マネージャの使用方法について説明します。
RDP接続、ICA接続の作成、変更(→27ページ)	RDP接続、ICA接続の作成、変更方法について説明します。
コントロールパネルの使用方法(→35ページ)	コントロールパネルの使用方法について説明します。 コントロールパネルに表示される項目は、ユーザーモードと管理者モードで異なります。詳細については、本項を参照してください。
キーボード(→38ページ)	キーボードの設定方法について説明します。
マウス(→39ページ)	マウスの設定方法について説明します。
画面(→40ページ)	画面の設定方法について説明します。
ボリューム&サウンド(→44ページ)	ボリューム&サウンドの設定方法について説明します。
日付/時刻(→46ページ)	日付および時刻の設定方法について説明します。
ネットワーク(→47ページ)	ネットワークの設定方法について説明します。
プリンタ(→48ページ)	プリンタの設定方法について説明します。
地域と言語の設定(→60ページ)	地域と言語の設定方法について説明します。
ターミナルサーバのクライアントライセンス(→61ページ)	ターミナルサーバのクライアントライセンスの設定方法について説明します。
システム(→62ページ)	システムの設定方法について説明します。
証明書(→64ページ)	証明書のインポート、表示、削除の方法について説明します。
ICAクライアント(→67ページ)	ICAクライアントについて説明します。

ネットワークユーティリティ(→72ページ)	ネットワークユーティリティについて説明します。
SNTP(→74ページ)	SNTPの設定について説明します。
アップデート(→75ページ)	アップデート方法について説明します。
ファイルアップロード(→78ページ)	ファイルアップロード方法について説明します。
ログオン設定(→80ページ)	ターミナル接続マネージャへのログオンの設定方法について説明します。
設定初期化(→82ページ)	設定の初期化方法について説明します。
管理者パスワード設定(→83ページ)	管理者パスワードの設定方法について説明します。
ユーザモード設定(→84ページ)	ユーザモード時のコントロールパネルアイコンとターミナル接続マネージャの構成タブ表示の設定方法について説明します。
ユーザモード切り替え(→85ページ)	管理者モードからユーザモードへの切り替え方法について説明します。
シャットダウンモード設定(→86ページ)	シャットダウンモードの設定方法について説明します。
SSCエージェント(→87ページ)	SSCの設定方法について説明します。
アプリケーションインストーラ(→88ページ)	USBからのアプリケーションインストールの方法について説明します。
ロギング(→90ページ)	ロギングの設定とログファイルのアップロードについて説明します。
エラーレポーティング(→92ページ)	エラーレポーティングについて説明します。
画面解像度設定(→94ページ)	画面解像度の設定について説明します。

ターミナル接続マネージャの使用方法

US110Eを電源ONすると、ターミナル接続マネージャが開きます。または、ターミナル接続マネージャにログオンする設定になっている場合は、ログオンダイアログボックスにユーザ名、パスワード、ドメインを入力します。



ターミナル接続マネージャへのログオンの使用有無は、システム管理者が設定します。

ターミナル接続マネージャには、仮想PCに接続するエントリを選択して接続したり、仮想PCへの接続を終了するときに使う「接続エントリタブ」と、接続の設定内容を編集する「構成タブ」があります。



管理者の設定によっては、「構成タブ」が表示されない場合があります。



図2-1 ターミナル接続マネージャ-接続エントリ

接続エントリのリストには、接続エントリ名、種類、状態が表示されます。接続エントリのコマンドボタンについて、以下に説明します。

- **接続**

選択されている接続エントリ名への接続を行います。



ターミナル接続マネージャへのログオンを行った場合、選択できる接続エントリはログオンユーザごとにシステム管理者により設定されています。ターミナル接続マネージャへのログオンを行わなかった場合、前回使用していた接続エントリを使用します。(ターミナル接続マネージャへのログオンを有効から無効に変更した場合は、前回ログオン時に使用していた接続エントリを使用します。)

- **終了**

選択されている接続エントリ名の接続を切断します。

- **シャットダウン**

ターミナルの終了ダイアログボックスが表示されます。「はい」ボタンをクリックするとUS110Eをシャットダウンします。ターミナル接続マネージャへのログオンを行った場合は、「ログオフ」ボタンをクリックするとログオフします。ターミナル接続マネージャへのログオンを行った場合のみ「ログオフ」ボタンは表示されます。

- **コントロールパネル**

コントロールパネルを表示します。

RDP接続、ICA接続の作成、変更

各接続の設定を行うには、ターミナル接続マネージャの構成タブをクリックします。



図2-2 ターミナル接続マネージャー構成

接続エントリ名、種類、スタートアップオプションが表示されます。コマンドボタンについて、以下に説明します。

- **追加**
新たに接続エントリの構成を追加します。
- **編集**
選択している接続エントリの構成を編集します。
- **削除**
選択している接続エントリの構成を削除します。
- **スタートアップ**
選択している接続エントリに対してスタートアップオプションを設定します。起動時に接続エントリを自動的に開始する場合は、このオプションを設定します。

 **チェック** 起動時に接続エントリを自動的に開始できるエントリは、1つだけです。既にオプションを設定している場合は、あとで設定したエントリが有効になります。

RDP接続構成の編集

RDP接続の接続エントリ名を選択して編集ボタンをクリックし、RDP接続設定ダイアログボックスを開くと接続を参照、構成できます。

新しいRDP接続を追加するには、追加ボタンをクリックし、新しい接続エントリダイアログボックスで「Microsoftリモートデスクトップクライアント」を選択します。



接続エントリ名をダブルクリックしても接続エントリを参照、構成できます。

接続の編集

全般 | 画面 | ローカルリソース | プログラム | エクスプレス

接続エントリ

名前(N):

サーバー(S):

自動ログオン(I)

ユーザー名(U):

パスワード(P):

ドメイン(M):

図2-3 RDP接続－全般

以下の指針に従って、各項目を設定してください。

● 接続先エントリ

－ 名前

接続エントリ名として表示するわかりやすい名前を入力します(最大31文字)。

－ サーバー

接続を行うサーバのサーバ名か、IPアドレスを入力します(最大225文字)。

－ 自動ログオン

ユーザー名、パスワード、ドメインを入力します。自動ログオンを設定する場合は、ユーザー名とドメインの入力は必須です。

－ ユーザー名

最大511文字

－ パスワード

5文字以上、最大511文字

－ ドメイン

最大511文字



チェック

- 「接続の編集」画面で自動ログオンを指定する場合は、ドメイン名の指定が必要です。ドメインユーザでログオンする場合は、ドメイン名を、Workgroup のマシンやローカルユーザでログオンする場合は、接続先のマシン名を指定してください。
- 「接続の編集」画面で自動ログオンを指定する場合は、パスワードは何桁で入力してもまたは未入力でも、再表示すると「*****」で表示されます。
- パスワードが入力されていない場合は、接続時のログオン画面で入力できます。

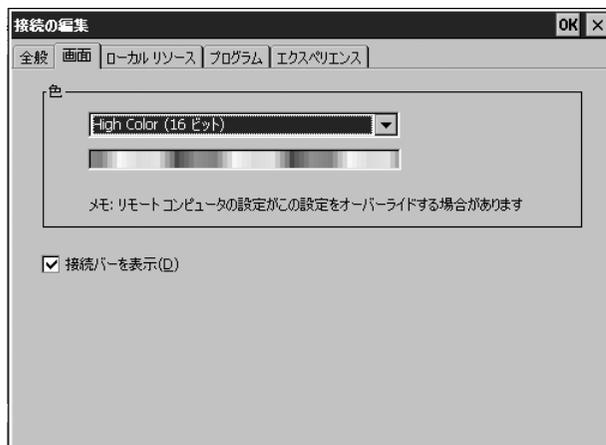


図2-4 RDP接続－画面

以下の指針に従って、各項目を設定してください。

● 色

RDPセッションの色深度を選択します。True Color (24ビット) (US110Eの色数が32ビット設定時のみ選択可能)、ハイカラー (16ビット)、256色から選択し、RDPサーバがその色深度をサポートしていないと、低深度 (たとえば、256色) を適用します。

● 接続バーを表示

全画面表示時にデスクトップ上部に接続情報バーの表示を設定します。



チェック

- US110Eの画面表示性能を最大限に引き出すために、US110Eの画面色の設定と仮想PC接続の画面色設定を両方も16ビットカラーに設定してのご使用を推奨します。

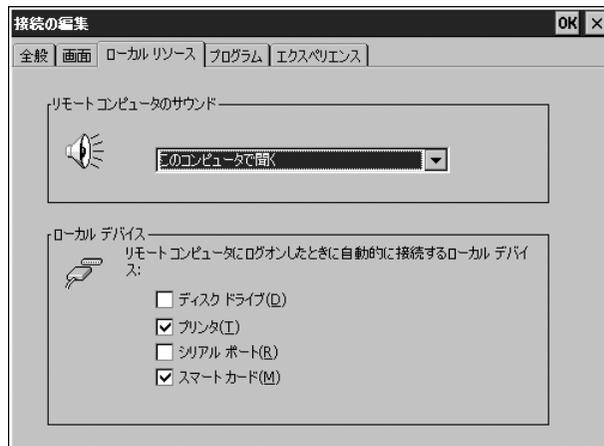


図2-5 RDP接続—ローカル リソース

以下の指針に従って、各項目を設定してください。

- **リモートコンピュータのサウンド**

「このコンピュータで聞く」か「再生しない」を選択します。

- **ローカルデバイス**

オプションを選択すると、リモートコンピュータにログオンしたとき、US110Eに接続されたオプション装置が仮想PCから使用できるようになります。

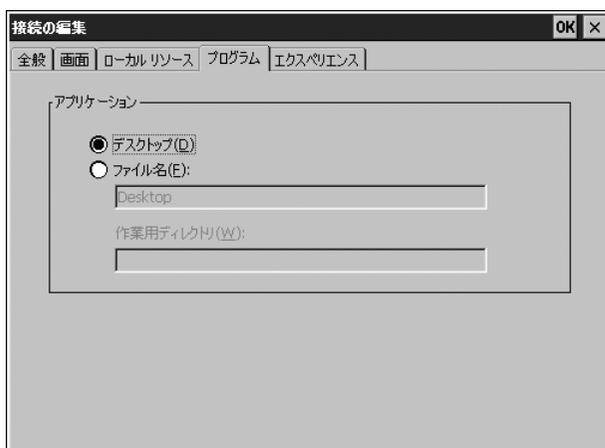


図2-6 RDP接続－プログラム

以下の指針に従って、各項目を設定してください。

- **アプリケーション**

デスクトップか、ファイル名を選択します。

- － デスクトップ

ログオン時にデスクトップを表示します。

- － ファイル名(最大259文字)、作業用ディレクトリ(最大259文字)

接続を行ったときに自動的に開始するアプリケーション名称と引数、作業用ディレクトリを入力します。

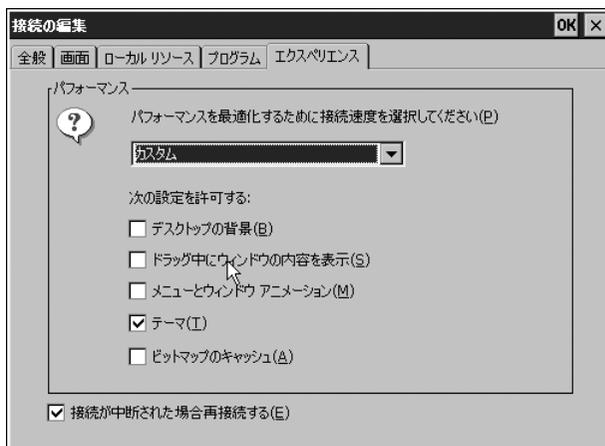


図2-7 RDP接続－エクスペリエンス

以下の指針に従って、各項目を設定してください。

- **パフォーマンス**

接続速度を選択します。

- － モデム (28.8Kbps)
- － モデム (56Kbps)
- － ブロードバンド* (128Kbps ~ 1.5Mbps)
- － LAN (10Mbps以上)
- － カスタム

- **デスクトップの背景**

選択すると、仮想PCのデスクトップの壁紙が有効になります。

- **ドラッグ中にウィンドウの内容を表示**

選択すると、ウィンドウをドラッグするとき、ウィンドウ全体が表示されたまま追従します。選択しないと、ウィンドウの輪郭のみ追従します。処理量を減らしたい場合に便利なオプションです。

- **メニューとウィンドウアニメーション**

選択すると、メニューやウィンドウのアニメ・キャラクタが有効になります。

- **テーマ**

選択すると、デスクトップテーマが有効になります。

- **ビットマップのキャッシュ**

選択すると、ビットマップのキャッシュが行われます。

- **接続が中断された場合再接続する**

選択すると、意図せず接続が損なわれた場合に、US110Eが自動的にセッションを接続し直します。

ICA接続構成の編集

ICA接続の接続エントリ名を選択して編集ボタンをクリックし、ICAコネクションの詳細設定ダイアログボックスを開くと設定内容の参照、編集ができます。

新しいICA接続を追加するには、追加ボタンをクリックし、新しい接続エントリダイアログボックスで「Citrix ICA Client」を選択します。



接続エントリ名をダブルクリックしても接続エントリを参照、編集することができます。

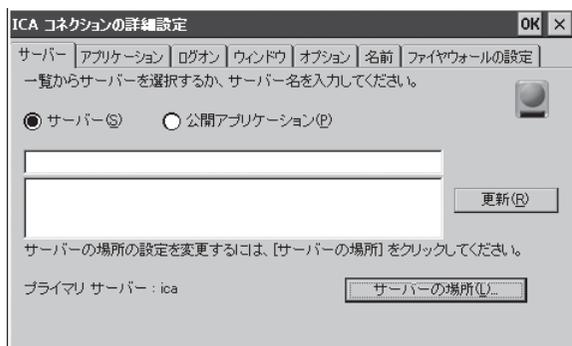


図2-8 ICA接続—サーバー/公開アプリケーションの選択

以下の指針に従って、各項目を設定してください。

● サーバーまたは公開アプリケーション

設定を適用する接続のタイプを選択します。サーバーを選択した場合は、接続先のCitrix Presentation Serverを指定します。公開アプリケーションを選択した場合は、公開アプリケーションを指定します。



リストボックスでの選択は、サーバーを選択するとサーバー名となり、公開アプリケーションを選択するとアプリケーション名になります。

● 更新

選択できる接続先Citrix Presentation Server または公開アプリケーションの一覧が更新されます。

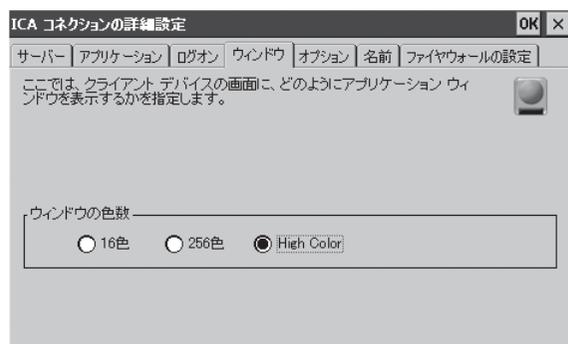


図2-9 ICA接続—ウィンドウ

以下の指針に従って、各項目を設定してください。

● ウィンドウの色数

ICAセッションの色深度を選択します。16色、256色、High Color、True Color (US110Eの色数が32ビット設定時のみ選択可能)から選択します。ICAサーバがその色深度をサポートしていないと、低深度(例えば16色)が適用されます。



チェック

US110Eの画面表示性能を最大限に引き出すために、US110Eの画面色の設定と仮想PC接続の画面色設定を両方とも16ビットカラーに設定してのご使用を推奨します。



重要

- US110Eの画面解像度設定で「32bpp」を選択して、ICAクライアントのウィンドウの色数に、「High Color」を選択すると、ICAで接続した画面が正しく表示されない場合があります。その場合、US110Eの画面解像度設定を「16bpp」としてください。
- ICAクライアントは、SpeedScreenマルチメディアアクセラレーションには対応していません。
- ICAクライアントの接続プロトコルとして、「TCP+HTTP」、「SSL/TLS+HTTPS」を選択するとエラーが発生する場合があります。接続プロトコルは「TCP」を選択してください。

コントロールパネルの使用方法

アイコンをクリックして選択状態にすると、アイコンの役割がウィンドウ下部にメッセージとして表示されます。アイコンをダブルクリックするか、アイコンをクリックして開くボタンをクリックすると各機能にアクセスすることができます。



図2-10 コントロールパネル



チェック

- US110Eのコントロールパネルは管理者の設定によって表示項目を変更することができます。
- コントロールパネルのSSCの設定によって表示されるアイコンが変わります。
- コントロールパネルに表示される項目は、ユーザモードと管理者モードで異なります。

ユーザモードで表示される項目(デフォルト設定の場合)

US110Eを起動した直後のコントロールパネルの表示項目は、ユーザモードのデフォルトの項目です。

- **キーボード**
文字のリピート設定の有無とリピート開始までの待ち時間、リピート間隔を設定できます。
- **マウス**
ダブルクリックの速度を調節します。
- **画面**
デスクトップの背景、ウィンドウやメッセージボックスの表示の配色、バックライトの設定ができます。
- **ボリューム&サウンド**
サウンドの音量、サウンドの設定を行うことができます。

- **日付/時刻**
日付、時刻、タイムゾーンの設定を変更できます。
- **ネットワークユーティリティ**
ネットワーク状況を確認するためのコマンド(ping、ipconfig、netstat)を実行します。
- **プリンタ**
US110Eに接続するプリンタを設定します。
- **システム**
US110Eのシステム情報を参照したり、デバイス名・デバイスの説明を変更したりできます。
- **証明書**
証明書の追加、削除、参照ができます。
- **ネットワークとダイアルアップ接続**
ネットワークの接続の設定、変更、削除ができます。
- **SNTP**
SNTPサーバとの時刻同期を実行します。
- **シャットダウン設定**
シャットダウンの設定を行います。
- **アップデート**
US110Eのアップデートの通信設定と手動アップデートを実行します。
- **画像解像度設定**
画像解像度を設定をします。

管理者モードで表示される項目

管理者モードの切り替えは、「コントロールパネルの管理者モードとユーザモード」を参照してください。

- **地域**
ロケールオプション、ユーザーインターフェイス言語、入力言語の設定を変更できます。言語、数値、時刻および日付の表示設定をカスタマイズします。
- **ターミナルサーバーのクライアントライセンス**
ターミナルサーバーのクライアントライセンスを表示します。
- **ICAクライアント**
すべてのICAエントリに適用される設定値や新しいICAエントリを作成するときに適用されるデフォルト値を設定します。
- **ファイルアップロード**
US110E設定情報、接続リストのファイルアップロードを実行します。
- **ログオン設定**
ターミナル接続マネージャへのログオンを設定します。

- **設定初期化**
レジストリを工場出荷時の状態に戻します。
- **管理者パスワード設定**
管理者モードに切り替えるための管理者パスワードを設定します。
- **ユーザモード設定**
ユーザモード操作時の、ターミナル接続マネージャの構成タブ表示、コントロールパネルのアイコン表示を設定します。
- **ユーザモード切替**
管理者モードからユーザモードへ権限を切り替えます。
- **SSCエージェント**
DPM、クライアント管理オプションを使用可能にします。
- **アプリケーションインストーラ**
USBストレージデバイスからアプリケーションをインストールします。
- **ロギング**
ログ出力の設定、ログファイルのアップロードを実行します。
- **エラーレポーティング**
Windowsにエラーが起こった場合に、エラー情報を取得します。

キーボード

キーボードのプロパティで、リピートの設定を行います。

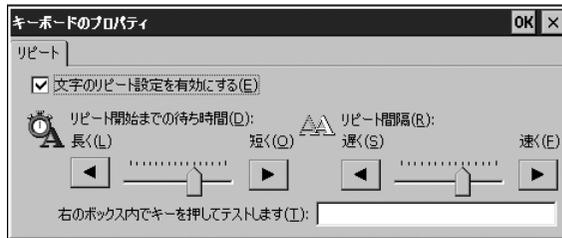


図2-11 キーボード

以下の指針に従って、各項目を設定してください。

- **文字のリピート設定**

この設定をオンにすると、ひとつのキーが押されたままのときに同じ文字が連続して入力されます。文字のリピート設定を有効にするにチェックすると、リピート開始までの待ち時間とリピート間隔の目盛りがアクティブになります。矢印をクリック、またはつまみをドラッグし、つまみを移動させて調節します。

- **リピート開始までの待ち時間**

リピート開始までの待ち時間が短ければ、キーを押し始めてからの時間が短くても連続入力が開始されます。ボックス内でテストしながら調節します。

- **リピート間隔**

リピート間隔が短ければ、短い押し時間で同じ文字が多く連続入力されます。ボックス内でテストしながら調節します。

マウス

マウスのプロパティで、ダブルクリックとマウスオプションの設定を行います。

ダブルクリック

ダブルクリックの設定を行います。

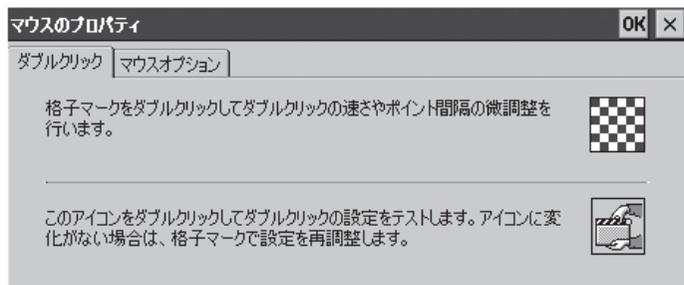


図2-12 マウス—ダブルクリック

右上の格子マークを適当な速さでダブルクリックします。
右下のアイコンをダブルクリックすると、格子マークでダブルクリックした速度がそれ以上の速度でアイコンが変化します。

マウスオプション

マウスのポインタ速度の設定を行います。

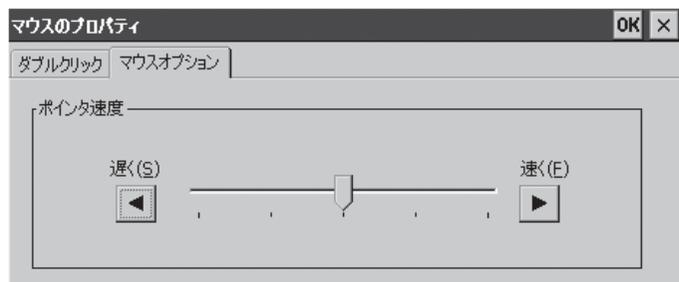


図2-13 マウス—マウスオプション

マウスのポインタ速度を5段階で設定します。

画面のプロパティで、背景、表示、バックライトの設定を行います。

背景

背景ダイアログボックスで、画面の背景を設定できます。

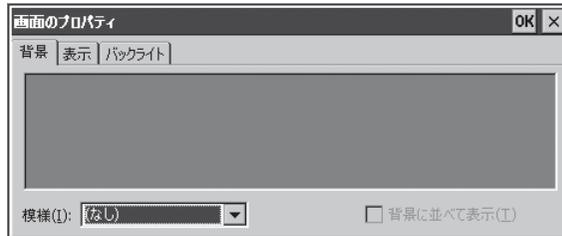


図2-14 画面のプロパティー背景

以下の指針に従って、各項目を設定してください。

- **模様**

模様リストから、US110Eデスクトップの背景にする画像を選択します。背景を無地にするには、(なし)を選択します。

- **背景に並べて表示**

チェックオンにすると画面全体に模様が並びます。



背景にする画像(.bmp形式)は、アプリケーションインストーラやアップデートの機能を使用して追加することができます。設定初期化を行っても追加した画像は削除されません。



画像を大量に追加するとファイルシステムがいっぱいになるため注意が必要です。追加する画像の総サイズは、2MBまでとしてください。

表示

表示ダイアログボックスで、ウィンドウや文字などの色を設定できます。



図2-15 画面のプロパティ表示

以下の指針に従って、各項目を設定してください。

● 配色

ウィンドウやウィンドウの文字などの色を配色リストから選択します。

ー 登録

配色に名前をつけて登録します (OK ボタンをクリックしなくても登録操作は確定します)。

ー 削除

配色を削除します (OK ボタンをクリックしなければ削除操作は確定しません)。ただし、Windows のスタンダードは既定の設定なので削除できません。

ー 適用

選択されている配色を適用します。

ー 指定する部分

配色を表示または設定する部分をリストから選択します。色のついたボタンをクリックすると色パレットが開きます。



マウスを使用して配色リストを選択してください。

ヒント



図2-16 色パレット

基本色パレットに希望の色があれば、選択し、OKをクリックします。色つきボタンがその選択に対応して色が変わります。希望する色がなければ、パレットの下にある「色>>」ボタンをクリックします。

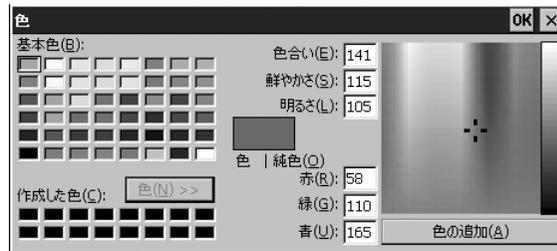


図2-17 色の追加パレット

カーソルで希望する色の部分を選んでクリックします。選択された色の情報が、色合い・鮮やかさなどの数値のボックスに反映されます。色の追加ボタンをクリックすると、作成した色パレットに作成した色が追加されます。

バックライト

バックライトダイアログボックスで、バックライトを自動的に消す設定ができます。

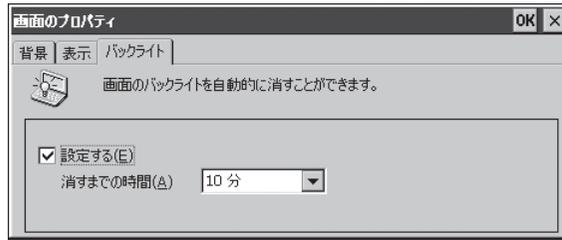


図2-18 画面のプロパティ-バックライト

以下の指針に従って、各項目を設定してください。

- **設定する**
チェックオンにすると、指定の時間でバックライトを消します。
- **消すまでの時間**
リストからバックライトを自動的に消すまでの時間を選択します。

ボリューム&サウンド

ボリューム&サウンドプロパティで、ボリュームやサウンドの設定を行います。

ボリューム

ボリュームダイアログボックスで、音量やサウンドを設定できます。

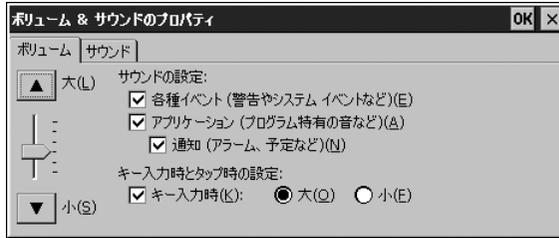


図2-19 ボリューム&サウンドのプロパティ-ボリューム

以下の指針に従って、各項目を設定してください。

- **音量**

つまみで音量を調節します。また、つまみの上下についている音量調整(▲(大)/▼(小))ボタンでも調整できます。

- **サウンドの設定**

- 各種イベント

この項目にチェックすると、警告やシステムイベント発生時に音が鳴ります。

- アプリケーション

この項目にチェックすると、プログラム特有の音が鳴ります。

- 通知

この項目にチェックすると、アラーム・予定を知らせるために音が鳴ります。
本機能は、US110Eではサポートされません。

- **キー入力時とタップ時の設定**

キー入力時項目をチェックし、音量(大・小)を選択します。

サウンド

サウンドダイアログボックスで、音を鳴らす場面を設定することができます。

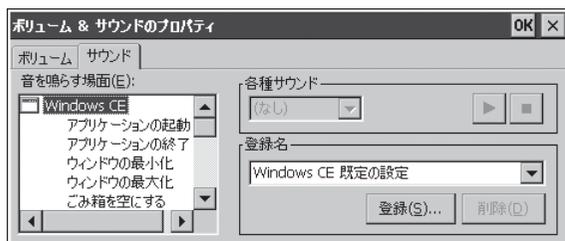


図2-20 ポリューム&サウンドのプロパティ-サウンド

以下の指針に従って、各項目を設定してください。

● 音を鳴らす場面

このボックスに、登録名の欄での選択(Windows CE既定の設定、サウンドなし、すべてのサウンド、など)が反映されます。

また、場面を選択し、右上の各種サウンドの欄でサウンドの種類変更やサウンドの有無を決めることができます。この場合、変更後に右下の登録をクリックし、新たな登録名をつける必要があります。

すでに登録されているもの(Windows CE既定の設定、サウンドなし、すべてのサウンド)のサウンドの種類やサウンドの有無の変更はできません。

● 各種サウンド

ダイアログボックスの中には音を鳴らす場面の欄で選択した場面对応したサウンドの種類が表示されますが、ボックスの中から選択して変更することができます。

ただし、すでに登録されているもの(Windows CE既定の設定、サウンドなし、すべてのサウンド)のサウンドの種類やサウンドの有無の変更はできません。

再生ボタン(▶)を押すことでサウンドの視聴ができます。停止したい場合は停止ボタン(■)を押します。

● 登録名

Windows CE既定の設定、サウンドなし、すべてのサウンドから選択します。

また、登録をクリックすると、オリジナルの設定をつくることができます。

日付／時刻

日付／時刻のプロパティで、日付、時刻、タイムゾーンの設定を行います。



図2-21 日付/時刻のプロパティ

以下の指針に従って、各項目を設定してください。

- **日付**
ボックス内の横矢印で月を選択し、カーソルで日を選択します。
- **現在の時刻**
カーソルで時、分、秒を選択し、ボックスの矢印で数字を選択します。
- **タイムゾーン**
装置が置かれている場所のタイムゾーンを選択します。デフォルトは大阪・札幌・東京です。
- **自動的に夏時間の調整をする**
夏時間のあるタイムゾーンを選択すると、このチェックボックスがアクティブになります。

項目の設定後、適用をクリックすると設定が適用されます。



US110Eでは、電源オフ時には時刻を保持しません。そのため初期設定では、電源オン時、時刻は 2007年7月1日 0時0分0秒が設定されます。
US110EでSNTPの設定を行うことで、US110E起動時にSNTPサーバと時刻同期を行います。

ネットワーク

ネットワークとダイヤルアップ接続画面で、US110Eのネットワーク設定を行います。



ネットワークの設定は、管理者の指示に従って設定してください。



図2-22 ネットワークとダイヤルアップ接続

IPアドレスの設定

US110Eで通常使用するネットワークを設定するには、「NETCLIENT-NSS」のプロパティを開きます。初期設定として「IPアドレスをDHCPサーバーから取得」が設定されています。

IPアドレスを直接指定する場合は、「IPアドレス」タブの「IPアドレスを指定」を選択してから、IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイの設定を行います。

次にネームサーバータブで、DNS、WINSの設定を行います。

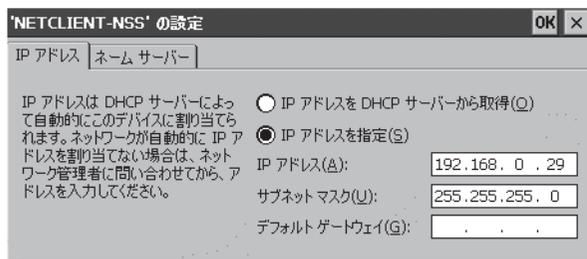


図2-23 IPアドレスの設定



VPNのネットワーク設定については、第3章を参照してください。

プリンタ

プリンタダイアログボックスで、プリンタの構成の追加、削除、変更を行います。

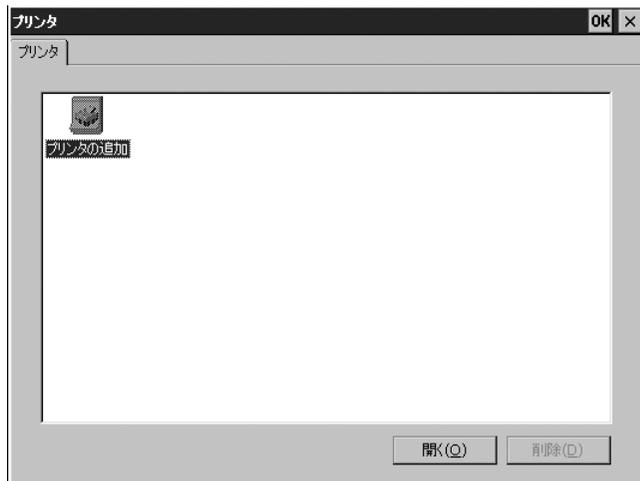


図2-24 プリンタ

ローカルプリンタの追加

US110EにUSBケーブルで直接プリンタを接続してください。

プリンタの追加アイコンをクリックし、「開く」をクリックするかアイコンをダブルクリックするとプリンタウィザードが開きます。

- **プリンタポートの選択**

リストボックスからプリンタに使用するポートを選択します。

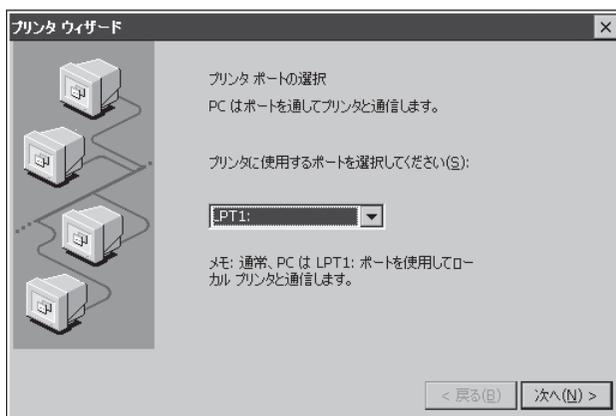


図2-25 プリンタウィザードーボードの選択(ローカルプリンタ)

ここではUS110Eに接続されたプリンタ構成を作成するので「LPT1」を選択します。構成されている環境によりこの値は「LPT2」などに変わる場合があります。またUS110Eにプリンタが正しく接続されていない場合や、プリンタの電源が入っていない場合などはこのポートは表示されません。

- **モデル名入力**

モデル名を入力します。

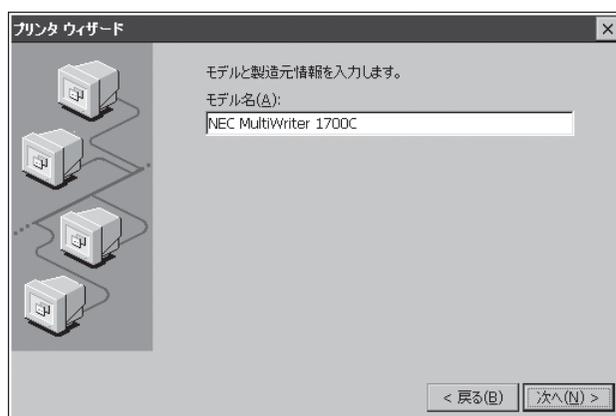


図2-26 プリンタウィザード—モデル名入力(ローカルプリンタ)

モデル名はPC側に設定したプリンタのモデル(プリンタドライバ名)と同一でなければなりません。詳細は後述の「モデル名の確認方法」を参照ください。

- **プリンタモデルの選択(prnlist.txt設定時)**

プリンタモデルを選択します。

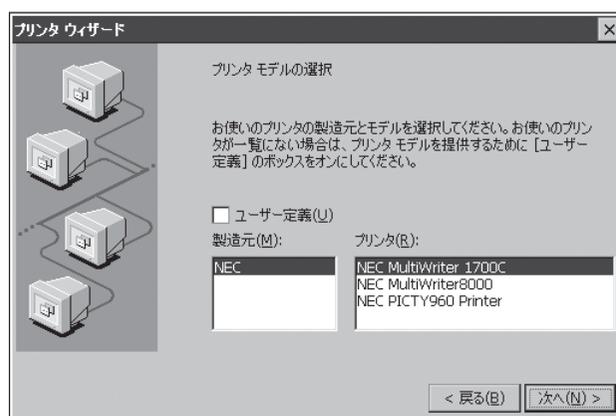


図2-27 プリンタウィザード—モデル設定(ローカルプリンタ)

管理者によりprnlistが用意されている場合、上図の選択画面が表示されますので、その中より使用するプリンタを選択します。使用するプリンタが一覧に無い場合、「ユーザー定義」チェックボックスにチェックを入れて「次へ」ボタンを押下することにより図2-26に遷移し、手入力でモデル名を設定することが可能になります。prnlistについての詳細は後述の「prnlist.txtの作成」を参照ください。

- **プリンタ名の入力**

任意のプリンタの名前を入力します。(最大100文字)

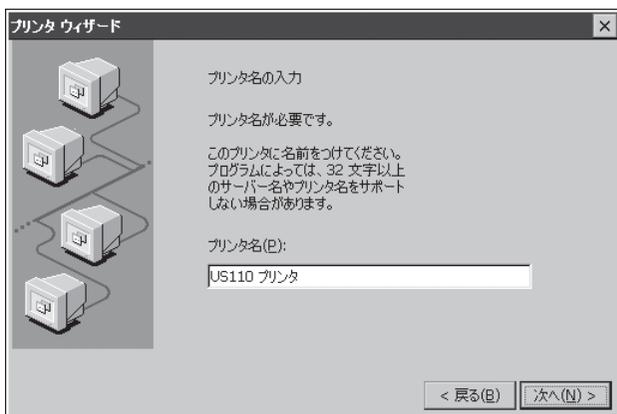


図2-28 プリンタウィザード—プリンタ名入力(ローカルプリンタ)

- **通常使うプリンタの設定**

通常使うプリンタの設定有無を選択します。この画面は、既にプリンタが追加されていた場合のみ表示されます。

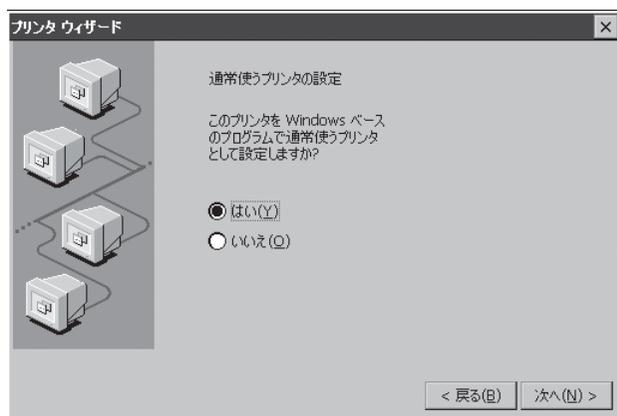


図2-29 プリンタウィザード—通常使うプリンタの設定(ローカルプリンタ)

- プリンタの構成確認

他のプリンタ構成を行うかどうかを選択します。

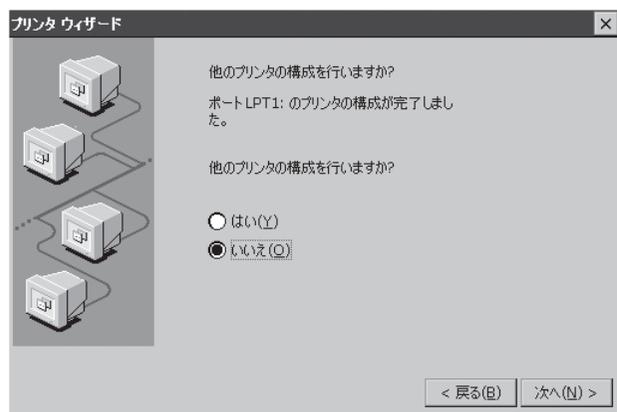


図2-30 プリンタウィザード—他のプリンタ構成の有無(ローカルプリンタ)

さらに他のプリンタ構成を行う場合は「はい」を選択します。他のプリンタ構成用に再度ウィザードが開始されますので、ウィザードに続きプリンタ構成を作成します。他のプリンタ構成が必要ない場合は「いいえ」を選択し完了画面に進みます。

- プリンタの構成完了

プリンタの構成が完了したメッセージが表示されます。

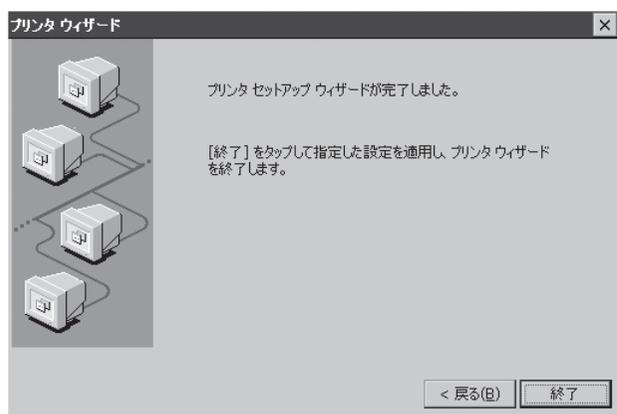


図2-31 プリンタ ウィザード—完了(ローカルプリンタ)

- 追加プリンタの確認

構成したプリンタが追加されていることを確認します。



図2-32 追加プリンタの確認

- モデル名の確認方法

モデル名はPC側に設定したプリンタのモデル(プリンタドライバ名)と同一でなければなりません。PCのコントロールパネルから「プリンタとFAX」を開き該当するプリンタ設定のプロパティで確認します。



図2-33 接続マシン上のプリンタ

モデルに表示されているモデル名を確認します。



図2-34 モデル名確認

ネットワークプリンタの追加

プリンタの追加アイコンをクリックし、「開く」をクリックするかアイコンをダブルクリックするとプリンタウィザードが開きます。

● プリンタポートの選択

リストボックスからプリンタに使用するポートを選択します。



図2-35 プリンタ ウィザードーポートの選択

● モデルの選択

プリンタのモデルを選択します。

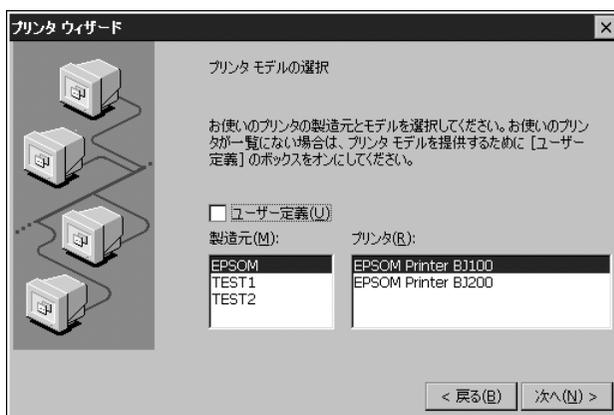


図2-36 プリンタ ウィザードーモデル設定



プリンタ モデルの選択画面はデフォルトでは表示されません。選択画面を表示させるには、プリンター一覧(prnlist.txt)を用意してダウンロードサーバから読み込んでおく必要があります。

● ネットワークパスの入力

プリンタポートにネットワークを選択した場合は、ネットワークパスを入力します。



図2-37 プリンタ ウィザードーネットワークパス

- ー モデル名
モデル名を入力します。(最大100文字)
- ー ネットワークパス
プリンタのネットワークパスを入力します。(最大200文字)

● プリンタ名の入力

プリンタの名前を入力します。(最大100文字)



図2-38 プリンタ ウィザードープリンタ名入力

- **プリンタの構成確認**

他のプリンタの構成を行うかどうかを選択します。



図2-39 プリンタ ウィザードー他のプリンタ構成の有無

プリンタの設定を終了する場合は他のプリンタの構成を行うの「いいえ」にチェックをし、ウィザードを終了してください。

新たに他のプリンタの構成を行う場合は「はい」にチェックし、プリンタの構成を設定してください。

- **プリンタの構成完了**

プリンタの構成が完了したメッセージが表示されます。



図2-40 プリンタ ウィザードー完了

プリンタのプロパティ

プリンタのアイコンをダブルクリック、もしくは選択してプロパティをクリックすると、プリンタのプロパティを参照できます。

プリンタの削除

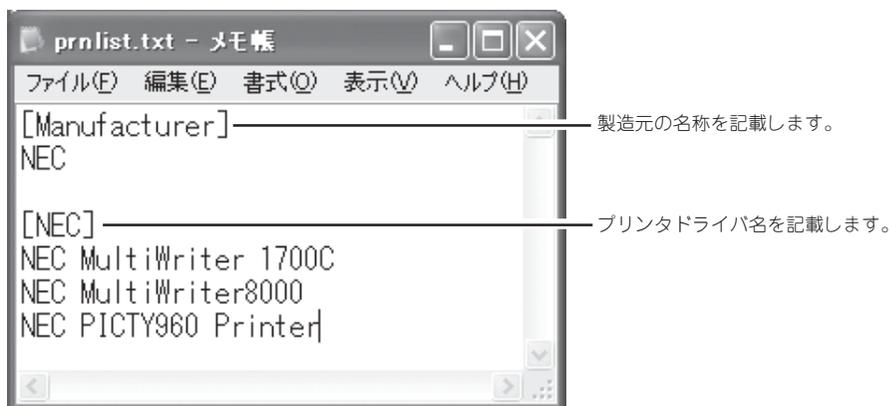
プリンタのアイコンを選択して削除をクリックします。

削除してよいかどうかの確認画面が表示されますので削除する場合は、「はい」をクリックしてください。

prnlist.txtの作成

使用可能なプリンター一覧をprnlist.txtに記載し、それをUS110Eにアップデートすることによってプリンタの設定を手入力のみでなく、プリンタモデルの選択(prnlist設定時)[図2-27]画面のように一覧から選択できるようになります。

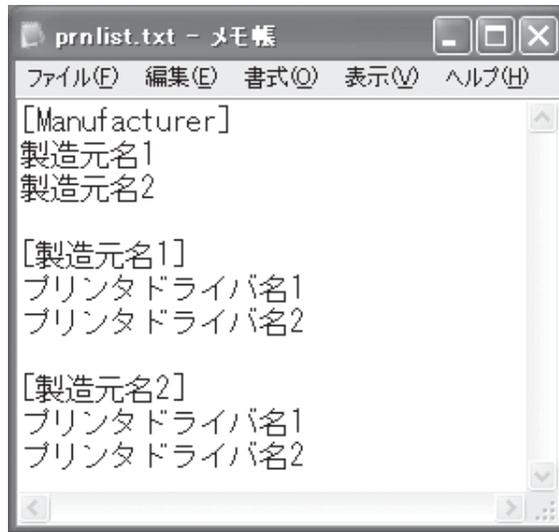
● prnlist.txt作成方法



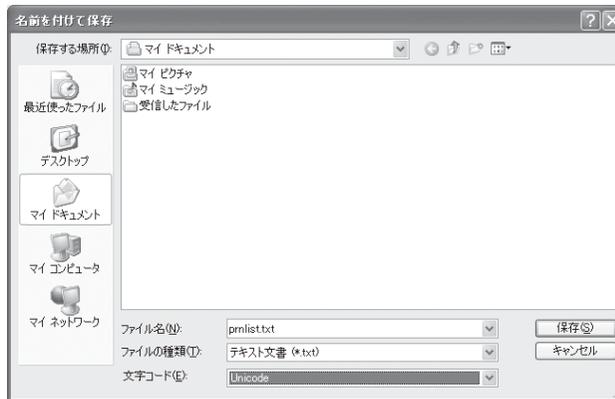
prnlist.txt例

上記例のようにprnlist.txtファイルを作成しUnicode形式で保存します。記載するプリンタドライバ名は大文字、小文字の違いやスペースの有無なども含め、完全に同じにしてください。行頭にスペース、タブなどがある場合は正しく認識されません。1つの製造元名、プリンタ名につき1行で記載します。またprnlist.txt自身のファイル名は全て小文字で「prnlist.txt」としてください。「Prnlist.txt」や「PRNLIST.txt」などと記載すると正しく動作しない場合があります。

複数の製造元を選択可能にする場合は下記のように記載します。



- Unicode形式で保存



メモ帳などで新たにテキストファイルを作成して、保存する際にファイル名を「prnlist.txt」とし「文字コード」ドロップダウンリストから「Unicode」を選択して保存します。

- list.txt作成



list.txt例

prnlist.txtはUS110Eのアップデート機能を使用してUS110Eに読み込ませます。prnlist.txtを読み込む場合にもlist.txtファイルが必要になりますので、上記例のようにlist.txtファイルを作成しprnlist.txt同様にUnicode形式で保存します。行頭にスペース、タブなどがある場合は正しく認識されません。1ファイルにつき1行で記載します。list.txtに記載するファイル名は大文字、小文字、スペースの有無なども含め、正確に記載してください。またlist.txt自身のファイル名は全て小文字で「list.txt」と記載してください。「List.txt」や「LIST.txt」と記載すると正しく動作しない場合があります。

地域と言語の設定

地域と言語の設定ダイアログボックスで、数値、通貨、日付および時刻の表示方法の設定を行います。

地域

地域ダイアログボックスで、一部のプログラムにおける数値、通貨、時刻および日付の形式を設定することができます。

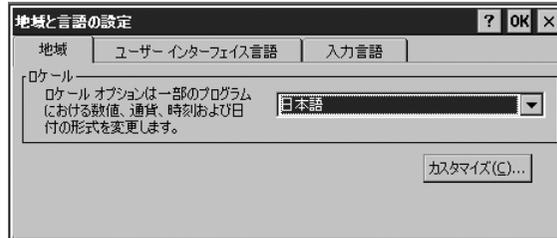


図2-41 地域と言語の設定—地域

ユーザーインターフェイス言語

このオプションでは、メニュー、ダイアログ、および通知を表示する言語を選択します。

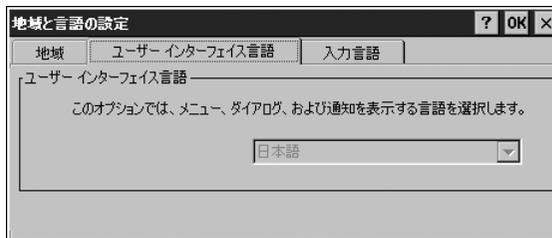


図2-42 地域と言語の設定—ユーザーインターフェイス

US110Eでは、ユーザーインターフェイス言語は固定であり、他言語の選択肢はありません。

入力言語

デバイス起動時の入力言語を参照することができます。



図2-43 地域と言語の設定—入力言語

ターミナルサーバのクライアントライセンス

ターミナルサーバのクライアントライセンスで、ライセンスの確認を行います。

ライセンスを選択して内容を確認します。

削除ボタンをクリックするとライセンスが削除されます。

システム

システムのプロパティで、システム情報の確認を行います。

情報

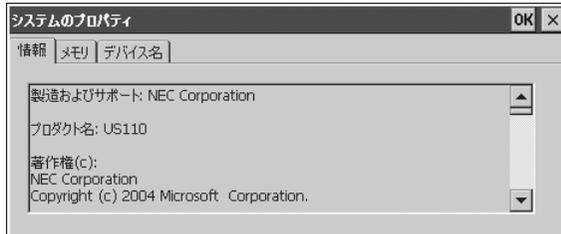


図2-44 システムのプロパティ - 情報

システムの情報を表示します。

メモリ

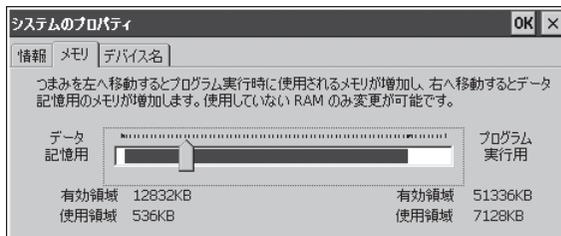


図2-45 システムのプロパティ-メモリ

つまみを左へ移動するとプログラム実行時に使用されるメモリが増加し、右へ移動するとデータ記憶用のメモリが増加します。使用していないRAMのみ変更が可能です。



US110Eの動作を調整するために、US110Eのメモリ使用について設定変更することができます。通常は変更する必要はありません。本設定変更は、US110Eの再起動すると初期設定にもどります。

デバイス名

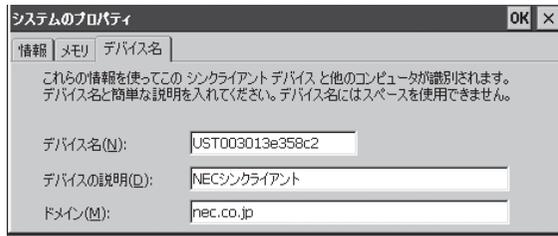


図2-46 システムのプロパティ-デバイス名

US110Eのデバイス名と簡単な説明を入力できます。
デフォルトでデバイス名・デバイスの説明は入力されています。

- **デバイス名**
デバイス名を入力します。(最大15文字)
- **デバイスの説明**
デバイス名の説明を入力します。(最大50文字)
- **ドメイン名**
ドメイン名を追加します。

証明書

証明書のストアダイアログボックスで、証明書のインポート、表示、削除を行います。



図2-47 証明書

リストボックスから一覧表示したい証明書の種類を選択すると証明書が一覧表示されます。証明書の種類は、信頼機関、自分の証明、他の機関から選択します。

● インポート

インポートボタンをクリックして証明書をインポートします。

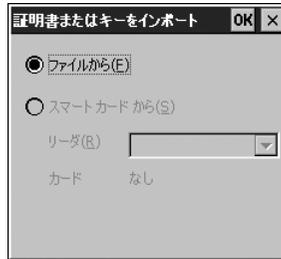


図2-48 証明書—インポート

ダウンロードサーバから取得した証明書、または外部メモリから証明書を追加できます。CER形式、PVK形式の証明書をインポートできます。

「ファイルから」を選択するとボックスが表示されるのでその中から追加したい証明書を選択します。



図2-49 証明書－ファイル選択

追加する証明書の確認メッセージが表示されますので、確認後「はい」を選択してください。

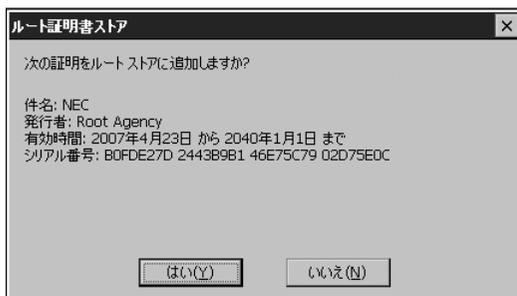


図2-50 証明書－インポート確認

- 証明書の表示

表示したい証明書を選択し、表示ボタンをクリックすると証明書のプロパティが表示されます。フィールドの一覧から表示したい項目を選択すると詳細のボックス内に詳細な内容を表示することができます。



図2-51 証明書—表示

- 証明書の削除

証明書の一覧表示から削除したい証明書を選択し、削除をクリックすると選択した証明書が削除されます。

ICAクライアント

すべてのICAエントリに適用される設定値や、新しいICAエントリを作成するときに適用されるデフォルト値の設定を行います。

ショートカットキー

システムのショートカットキーに独自のキーの組み合わせを定義します。



図2-52 ICAクライアント—ショートカットキー

ICAクライアントでは、ICAセッションで各種の機能を実行するショートカットキーを使用できます。

プルダウンで値を選択することにより、デフォルトのショートカットキーを変更できます。無効に設定すると、ショートカットキーは無効になります。

基本設定

新しいエントリに適用するさまざまな設定を指定します。また、Program Neighborhood エージェントを有効にしてその設定を変更できます。

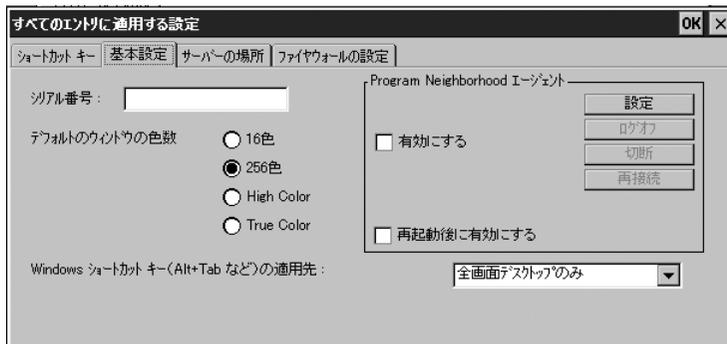


図2-53 ICAクライアントー基本設定

以下の指針に従って、各項目を設定してください。

- **シリアル番号**

シリアル番号を入力します。

- **ICAセッティング (シリアル番号)**

こちらの項目については、Citrix社製品の中でシリアル番号の入力が必要な製品を使用する場合に入力が必要となります。シリアル番号の入力メッセージが表示されない場合は、何も入力する必要はありません。そのままご使用ください。なお、Citrix Presentation Server 4.0、4.5ではシリアル番号の入力は必要ありません。

- **デフォルトウィンドウの色**

ICAセッションのウィンドウの色を、16色、256色、HighColor、またはTrueColorのいずれかから選択します。

- **Program Neighborhoodエージェント**

Program Neighborhoodエージェントの設定を行います。



- Program Neighborhoodエージェントを、US110E上で有効にするには、設定完了後US110Eを再起動してください。
- US110Eの画面表示性能を最大限に引き出すために、US110Eの画面色の設定とICAの画面色設定を両方とも16ビットカラーに設定してのご使用を推奨します。

サーバーの場所

新しいICAエントリを作成するときに適用されるサーバーの場所およびプロトコルを設定します。

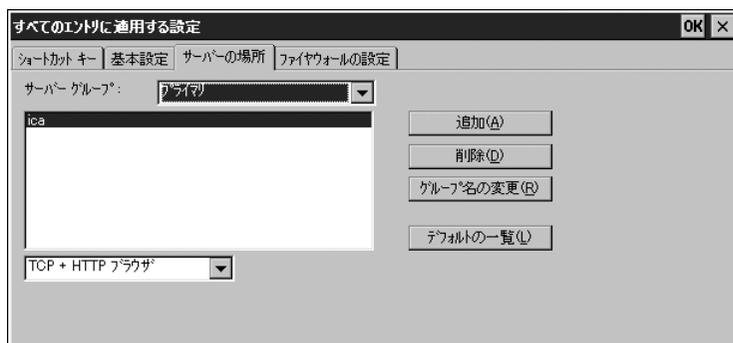


図2-54 ICAクライアント→サーバーの場所

以下の指針に従って、各項目を設定してください。

- リストボックスにある一覧から、必要なプロトコルを選択します。
- サーバークラウドの一覧から、設定するサーバークラウドを選択します。
- プライマリ、バックアップ1、バックアップ2を選択できます。
- 追加をクリックします。サーバーのアドレス追加ダイアログボックスが開きます。
- 選択したグループに追加するCitrixサーバーのアドレスを入力します。
TCP+HTTP またはSSL/TLS+HTTPSプロトコルを選択した場合、サーバーのアドレスとポート番号を入力する必要があります。入力後はOKをクリックします。
- 必要に応じてサーバーを追加または削除します。OKをクリックして変更を保存します。
グループの変更をクリックしてサーバークラウド名を追加または削除します。

ファイヤーウォールの設定

新しいエントリのデフォルトのSOCKSまたはSecureプロキシ、代替アドレスのリマップ、およびCitrixSSL/TLSRelayに関する設定を行います。

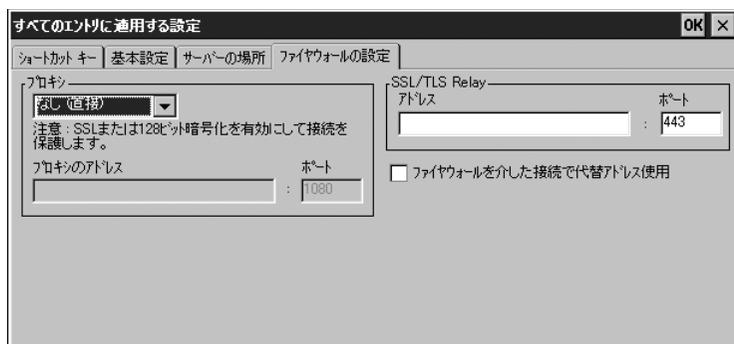


図2-55 ICAクライアント-ファイヤーウォールの設定

新しいICAエントリを作成するときに適用されるSOCKSまたはSecureプロトコルサーバー、SSL/TLS Relayの設定をします。

● 新しいエントリのデフォルトの「SOCKSプロキシサーバーを設定する場合

1. プロキシの一覧からSOCKSを選択します。
2. プロキシのアドレスボックスにSOCKSプロキシサーバーのIPアドレスまたは完全修飾ドメイン名を入力します。
3. ポートボックスにプロキシサーバーのポート番号を入力します。
4. OKをクリックします。

これにより、新しく作成するICAエントリでは、指定したSOCKSプロキシサーバーがデフォルトで使用されます。



SOCKSはUDPブラウズでは実行できません。

- **新しいエントリのデフォルトのSecureプロキシサーバーを設定するには**

1. プロキシの一覧からSecure(HTTPS)を選択します。
2. プロキシのアドレスボックスにSecureプロキシサーバーのIPアドレスまたはDNS名を入力します。
3. ポートボックスにプロキシサーバーのポート番号を入力します。
4. CitrixSSL/TLS Relayを有効にするには、SSL/TLS Relayのアドレスにアドレスをポートにポート番号を入力します。
5. OKをクリックします。



デフォルトのSecureプロキシサーバーを設定する場合は、接続するCitrixサーバーまたは公開アプリケーションに対して1つ以上のサーバーをサーバーの場所タブで指定する必要があります。詳しくは「サーバーの場所」(69ページ)を参照してください。

- **新しいエントリにて代替アドレス使用をデフォルトで有効にするには**

1. ファイヤーウォールを介した接続で代替アドレス使用チェックボックスを有効にします。
2. OKをクリックします。

ネットワークユーティリティ

ネットワーク接続のチェックを行います。

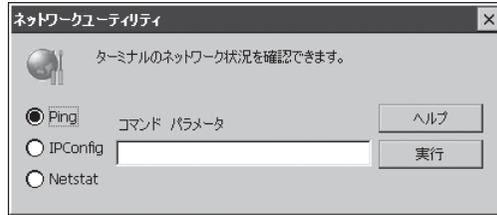


図2-56 ネットワークユーティリティ

ネットワーク状況を確認するためのコマンド(「ping」、「ipconfig」、「netstat」)を実行します。

コマンドを選択し、「実行」ボタンをクリックすると選択されたコマンドを実行します。

- **選択コマンド**

「ping」、「ipconfig」、「netstat」から実行するコマンドを選択します。
デフォルトの選択コマンドは「ping」です。

- **コマンドパラメータ**

選択状態のコマンドに指定するパラメータを入力します。
コマンドパラメータの最大文字数は256文字です。

- **「ヘルプ」ボタン**

選択コマンドで選択状態のコマンドのHELPを表示します。

- **「実行」ボタン**

選択コマンドで選択状態のコマンドを実行します。

- **「キャンセル」ボタン**

ネットワークユーティリティを終了します。

ping診断ユーティリティ

ping診断ユーティリティを実行し、応答メッセージを表示します。

エコーリクエストをネットワークホストに送信する診断ツールです。ホスト・パラメータは有効ホスト名またはIPアドレスです。ホストがネットワークで動作していると、エコーリクエストに応答します。

ping診断ユーティリティは、毎秒1エコーリクエストの送信、ラウンド・トリップ時間、パケット・ロス統計量の計算が完了すると簡単なサマリを表示します。

**チェック**

すべてのネットワーク装置がpingパケットに応答するわけではありません。pingはサービス拒絶攻撃に用いる一般的機能だからです。応答がなくても、必ずしも、pingの対象が他の目的に使用できないことを示している訳ではありません。

ipconfigユーティリティ

TCP/IP構成の表示を行います。

**チェック**

US110Eの標準ネットワークインタフェースのMACアドレスは以下の方法で確認できます。

1. コントロールパネルからネットワークユーティリティを開きます。
2. IPCONFIGを選択して「/all」オプションで実行します。
3. 表示された実行結果のaddressの行にMACアドレスが表示されます。

netstatユーティリティ

通信中のTCPコネクションの状態の表示を行います。

SNTP

SNTPサーバに接続して、時刻の同期をとることができます。

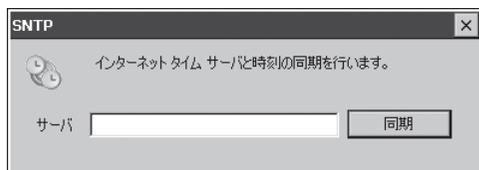


図2-57 SNTP

以下の指針に従って、各項目を設定してください。

- **SNTPサーバ名**
サーバ名を入力します。(最大256文字)
- **「同期」ボタン**
SNTPサーバへアクセスし時刻を設定します。
- **「終了」ボタン**
SNTPを終了します。

||  **チェック** US110Eでは、電源オフ時には時刻を保持しません。US110Eの起動時に自動的に時刻設定するために、SNTPを利用してください。

アップデート

アップデートの通信設定と手動アップデートを行います。

アップデート

US110Eのアップデートを行います。

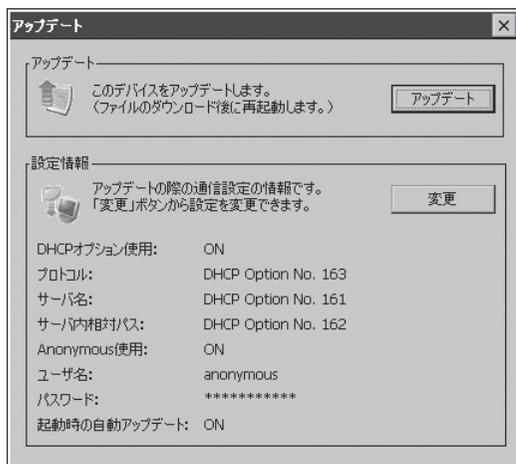


図2-58 アップデート

アップデートを実行する場合は「アップデート」ボタンをクリックします。

アップデートが開始されると処理状況が表示されます。

アップデート処理終了後、処理結果のメッセージが表示されます。

例1) アップデートが完了しました。

アプリケーションがアップデートされた場合に表示されます。

例2) サーバとの接続に失敗しました。

サーバと接続できず、アップデートができなかった場合に表示されます。

レジストリのデータやOSをアップデートした場合、US110Eを自動的に再起動します。



チェック

- アップデートのためにダウンロードサーバが必要です。
デスクトップの壁紙のBMPファイルはメモリ上に展開するため、影響を考慮して1MBのサイズにします。
アップデートプログラム自体をアップデートする場合のために、アップデートプログラムの実行はメモリ上に展開し、それを実行します。
- アプリケーションや、壁紙をアップデートするには、アップデートするファイルを所定のディレクトリに配置します。
アップデートするファイルの一覧をテキスト形式(UNICODE)で作成し、アップデートするファイルと同じディレクトリにlist.txtという名前で保存します(1ファイル1行で記載します)。
行頭にスペース、タブなどがある場合は、ファイル名が正しく認識されません。
ディレクトリを指定することはできません。

list.txtファイルの例：

```
フィッシング.bmp  
グリーン ストーン.bmp  
サポテック織り.bmp  
サンタフェ.bmp  
しゃくなげ.bmp  
シャボン.bmp  
us_Administrator.CAB
```



重要

- list.txtに記載されていない壁紙(bmpファイル)がUS110Eに存在する場合は、記載されていないファイルは削除されます。(アップデートしたアプリケーションは削除されません。)
- 「list.txt」このファイルの名前は小文字で指定してください。「List.txt」等とすると、Linuxサーバ等では別ファイルとして扱われます。
- list.txtはUNICODE形式で作成してください。Windowsのメモ帳で、ファイルを保存する際に「文字コード」として「Unicode」を選択して保存してください。

アップデート設定

アップデートの通信設定を変更します。

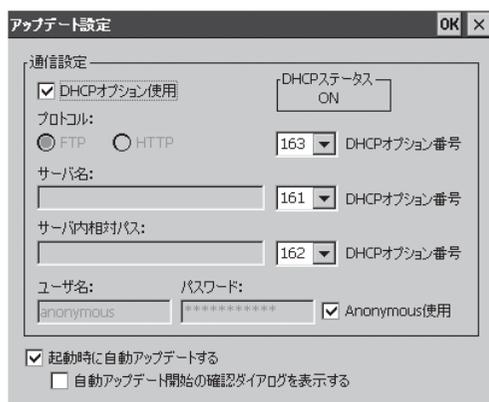


図2-59 アップデート設定

以下の指針に従って各項目を設定してください。

- **DHCPオプション使用**
チェックすると、DHCPオプション番号に設定されているDHCPオプション番号でプロトコル、サーバ名、サーバ内相対パスを取得します。
- **プロトコル**
ダウンロードサーバへ接続するプロトコル(HTTPまたはFTP)を選択します。
- **サーバ名、サーバ内相対パス**
ダウンロードサーバのサーバ名(またはIPアドレス)と相対パスを入力します。(最大256文字)
- **DHCPオプション番号リスト**
DHCPオプション番号の選択をします。DHCPオプション使用チェック時のみ有効です。
- **Anonymous使用**
Anonymous使用を選択します。(プロトコルがFTPの場合のみ)
- **ユーザ名**
サーバログオン時のユーザ名を入力します。(最大128文字)
- **パスワード**
サーバログオン時のパスワードを入力します。(最大128文字)
- **DHCPステータス**
DHCPの状態を表示します。
- **起動時に自動アップデートする**
US110E起動時の自動アップデートの有効/無効を設定します。
- **自動アップデート開始の確認ダイアログを表示する**
ダウンロードサーバにアップデートファイルが見つかった場合に、アップデートの有無を確認するダイアログの表示有無を設定します。

ファイルアップロード

US110Eの設定情報をサーバにアップロードします。

ファイルアップロードでは、US110Eの設定情報をFTPサーバにアップロードできます。US110Eの設定情報は、common.txtというファイル名でアップロードされます。common.txtはダウンロードサーバに置いて、同フォルダのlist.txtにcommon.txtを記載することで、他のUS110Eで設定情報をダウンロードして設定適用することができます。

なお、common.txtには、以下の情報は保持されません。

- コントロールパネルのキーボード、マウス、ネットワークとダイアルアップ設定、画面、証明書



チェック

US110Eで、アップロードする情報を設定する場合は、まずコントロールパネルの設定初期化を行って、US110Eを初期化して、不要な設定がない状態にしてから、設定を行うようにしてください。

ファイルアップロード

サーバレジスタデータを保存します。

設定情報アップロード
設定情報をサーバへアップロードします。 [アップロード]

接続先リストアップロード
接続先リストをサーバへアップロードします。 [アップロード]

接続ユーザ名
接続パスワード

アップロード先サーバ情報
プロトコル FTP
サーバ名
サーバ内相対パス
 Anonymous使用
ユーザ名
パスワード

図2-60 ファイルアップロード

以下の指針に従って各項目を設定してください。



ヒント

前回ファイルアップロード時に設定された内容があれば、規定値として表示します。

● 設定情報アップロード

設定情報をサーバへアップロードします。Common.txt ファイルがサーバに作成されま
す。

● 接続先リストアップロード

接続先リストをサーバへアップロードします。ユーザ名.txt ファイルがサーバに作成されます。

ー 接続ユーザ名

ターミナル接続マネージャへのログオンで使用するユーザ名を設定します。(最大20文字)

ー 接続パスワード

ターミナル接続マネージャへのログオンで使用するパスワードを設定します。パスワードは、大文字、小文字、数字を含めて8文字以上である必要があります。(最大127文字)

● アップロード先サーバ情報

ー プロトコル

ファイルアップロードに使用するプロトコルを表示します。FTPのみ使用できます。

ー サーバ名

ファイルをアップロードするサーバ名または、IPアドレスを入力します。(最大256文字)

ー サーバ内相対パス

ファイルの格納先の相対パスを入力します。(最大256文字)

ー Anonymous使用

チェックの場合、サーバログオン時にAnonymousを使用します。

ー ユーザ名

サーバログオン時のユーザ名を設定します。(最大128文字)

ー パスワード

サーバログオン時のパスワードを設定します。(最大128文字)

||  ユーザ名に「common」を使用することはできません。
||  チェック

ログオン設定

ターミナル接続マネージャへのログオン設定を行います。

ログオン設定情報

ターミナル接続マネージャへのログオン設定情報を表示します。

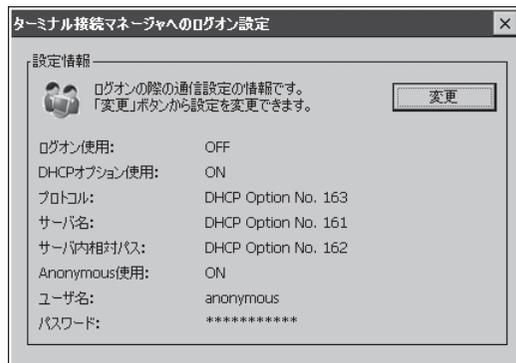


図2-61 ログオン設定情報

ログオン設定を変更する場合は、「変更」ボタンをクリックします。

ログオン設定

ターミナル接続マネージャへのログオン設定を変更します。

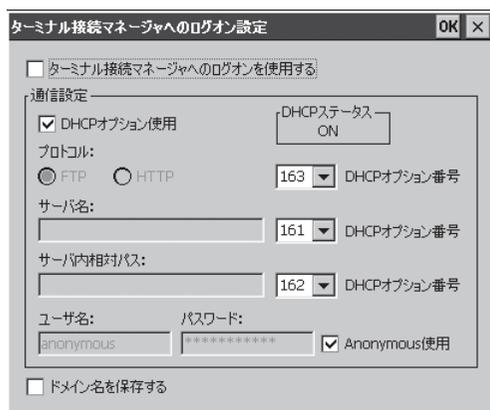


図2-62 ログオン設定

以下の指針に従って各項目を設定してください。

- **DHCPオプション使用**
チェックすると、DHCPオプション番号に設定されているDHCPオプション番号でプロトコル、サーバ名、サーバ内相対パスを取得します。
- **プロトコル**
ダウンロードサーバへ接続するプロトコル(HTTPまたはFTP)を選択します。
- **サーバ名、サーバ内相対パス**
ダウンロードサーバのサーバ名(またはIPアドレス)と相対パスを入力します。(最大256文字)
- **DHCPオプション番号リスト**
DHCPオプション番号の選択をします。DHCPオプション使用チェック時のみ有効です。
- **Anonymous使用**
Anonymous使用を選択します。(プロトコルがFTPの場合のみ)
- **ユーザ名**
サーバログオン時のユーザ名を入力します。(最大128文字)
- **パスワード**
サーバログオン時のパスワードを入力します。(最大128文字)
- **DCHPステータス**
DHCPの状態を表示します。
- **ターミナル接続マネージャへのログオンを使用する**
ターミナル接続マネージャへのログオンの有効/無効を設定します。
- **ドメイン名を保存する**
ターミナル接続マネージャへのログオンのダイアログで、入力したドメイン名の保存を有効/無効で設定します。有効を設定した場合、前回保存していたドメイン名をターミナル接続マネージャへのログオンのダイアログに表示します。

設定初期化

US110Eの設定の初期化を行います。

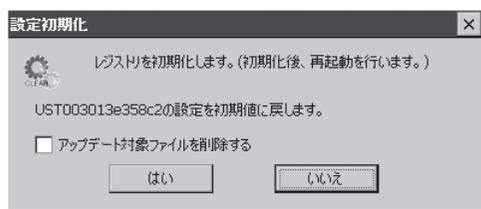


図2-63 設定初期化

US110Eに保存されているレジストリの内容を初期化します。

「アップデート対象ファイルを削除する」にチェックをした場合は、US110Eにダウンロードして取り込んだ壁紙ファイル(.bmp)、プリンタ情報ファイル(prnlist.txt)、証明書ファイルも一緒に削除します。

「はい」ボタンをクリックし初期化を実行すると、US110Eを再起動する確認メッセージが表示されます。「OK」ボタンをクリックしてください。再起動後、再度US110Eを手動で再起動してください。

管理者パスワード設定

管理者モードに切り替えるためのパスワードの設定を行います。
管理者パスワードが既に設定されている場合は、古いパスワード入力ダイアログボックスが開きます。

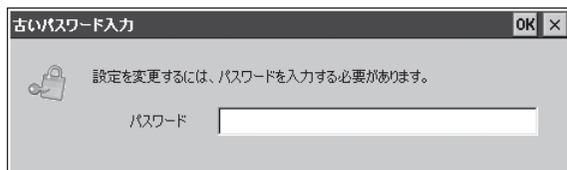


図2-64 管理者パスワード入力

管理者パスワードを入力します。

管理者パスワード設定ダイアログボックスが開きます。

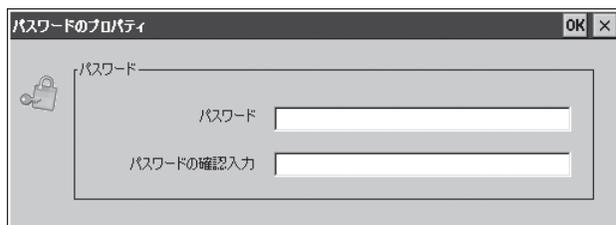


図2-65 管理者パスワード設定

新しいパスワード入力欄とパスワード入力確認欄の両方に新しいパスワードを入力します
(最大40文字)。



パスワードは、大文字、小文字、数字を含んだ8文字以上の文字列でなければなりません。

ユーザモード設定

ユーザモード時のコントロールパネルアイコンとターミナル接続マネージャの構成タブ表示の設定を行います。

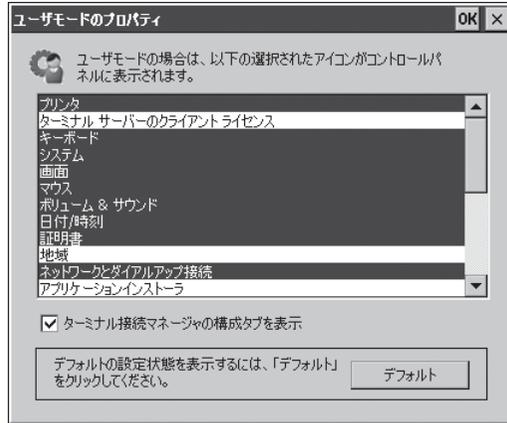


図2-66 ユーザーモードのプロパティ

ユーザーモードでコントロールパネルに表示されるアイコンを設定します。

- **表示アイコンリスト**

ユーザモード時にコントロールパネルに表示するアイコンを選択します。画面表示時は前回設定した(初回はデフォルト)選択状態が表示されます。

- **ターミナル接続マネージャの構成タブ表示チェックボックス**

ターミナル接続マネージャの構成タブの表示状態を設定します。画面表示時は前回設定した(初回はデフォルト)選択状態が表示されます。

- **「デフォルト」ボタン**

「表示アイコンリスト」と「ターミナル接続マネージャ構成タブ表示チェックボックス」をデフォルトの選択状態にします。

- **「OK」ボタン**

構成タブ表示状態、表示アイコンを設定します。

- **「×」ボタン**

ユーザモード設定をキャンセルします。

ユーザモード切り替え

管理者モードからユーザモードへの切り替えを行います。

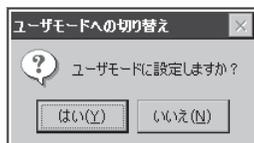


図2-67 ユーザーモード切替

管理者モードからユーザモードへ権限を切り替えます。

 **チェック** コントロールパネルからアプリケーションを起動している場合は、ユーザモードへの切り替えはできません。

 **ヒント** ユーザーモードから管理者モードへの切り替えは「管理者モード」(100ページ)の項目を参照してください。

シャットダウンモード設定

シャットダウンの設定を行います。

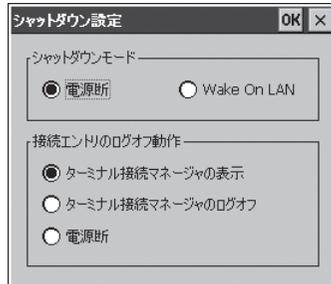


図2-68 シャットダウン設定

- シャットダウンモード

- 電源断

- US110Eの電源を落とします。

- Wake On LAN

- ネットワーク上の他のコンピュータから特定の packets を受信した場合にUS110Eを起動できる状態にします。

- 接続エントリのログオフ動作

- 接続エントリのログオフしたときの動作を選択します。

SSCエージェント

SSCエージェントの設定を行います。

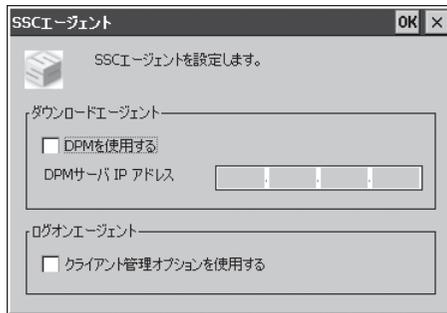


図2-69 SSCエージェント設定

以下の指針に従って各項目を設定してください。

- **ダウンロードエージェント**
この欄にチェックを入れると、DPMオプションが有効になります。
- **DPMサーバIPアドレス**
DPMサーバのIPアドレスを入力します。（DPMオプションが有効の場合のみ）
- **ログオンエージェント**
この欄にチェックを入れると、クライアント管理オプションが有効になります。

重要 DPMオプションはVPCC 2.0以降の対応となります。

アプリケーションインストーラ

USBストレージデバイスからのアプリケーションインストールを行います。

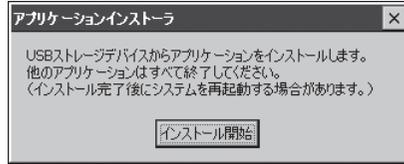


図2-70 アプリケーションインストーラ

アプリケーションインストーラの処理の実行確認を行います。「はい」ボタンをクリックしてアプリケーションインストーラを実行します。インストールしているファイル名が表示されます。

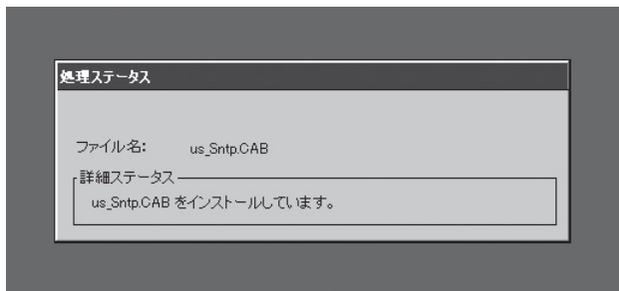


図2-71 アプリケーションインストーラ-処理ステータス

インストールが完了すると完了画面が表示されます。

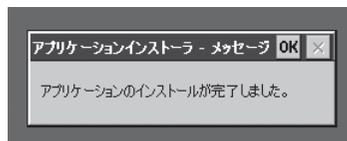


図2-72 アプリケーションインストーラ-完了



チェック

- アプリケーションのインストールを行うには、list.txtファイルとcabファイルをUSBメモリ配下に配置します。

list.txtファイルは、UNICODE形式のテキストファイルで、インストールするcabファイル名を指定します。

- アプリケーションインストーラを使用する場合は、使用中のアプリケーションはすべて終了させてから、アプリケーションインストーラだけを起動してください。



ヒント

list.txtファイルの形式については、「アップデート」(75ページ)を参照してください。



重要

アプリケーションインストーラは、USBストレージデバイスをUS110Eに接続してから起動してください。

アプリケーションのインストーラファイル(cabファイル)は、USBメモリ配下のUS110Eディレクトリのみ検索します。下位フォルダの検索は行いません。

ロギング

ロギングの設定とログファイルのアップロードを行います。

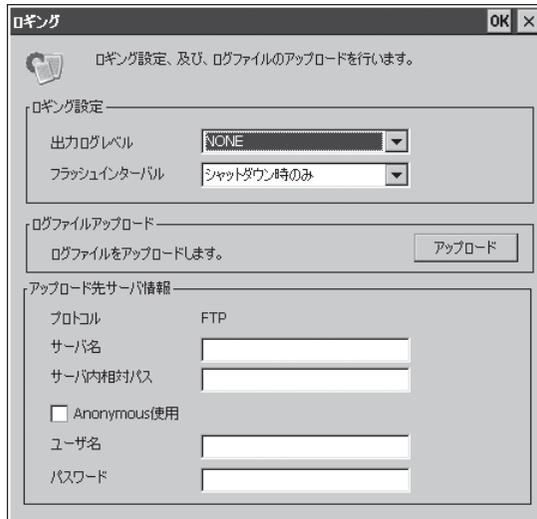


図2-73 ロギング

以下の指針に従って各項目を設定してください。

- **出力ログレベル**

出力ログレベルを「NONE」、「ERROR」、「WARNING」、「INFO」から選択します。デフォルトは「NONE」です。出力ログレベルを設定するには、「OK」ボタンをクリックします。

- **フラッシュインターバル**

フラッシュインターバルを「10秒」、「30秒」、「1分」、「10分」、「1時間」、「シャットダウン時のみ」から選択します。フラッシュインターバルを設定するには、「OK」ボタンをクリックします。

- **プロトコル**

ファイルアップロードの使用するプロトコルを表示します。

- **サーバ名**

ログファイルをアップロードするサーバ名または、IPアドレスを入力します(最大256文字)。

- **サーバ内相対パス**

ログファイルの格納先の相対パスを入力します(最大256文字)。

- **Anonymous使用**
チェックの場合、サーバログオン時にAnonymousを使用します。
 - **ユーザ名**
サーバログオン時のユーザ名を入力します(最大128文字)。
 - **パスワード**
サーバログオン時のパスワードを入力します(最大128文字)。
 - **「アップロード」ボタン**
ログファイルのアップロードを実行します。
 - **「×」ボタン**
ログインダイアログボックスを閉じます。
- ||  ログファイルをアップロードするためには「アップロードサーバ」が必要です。
|| **チェック**

エラーレポーティング

Windowsにエラーが起こった場合に、エラー情報を取得するかどうかの設定を行います。

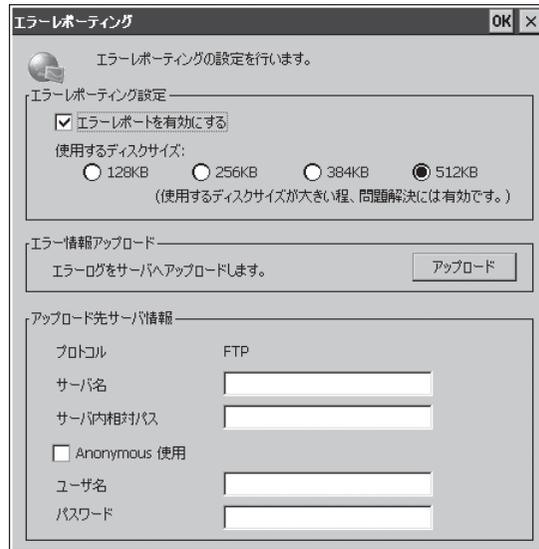


図2-74 エラーレポーティング

以下の指針に従って各項目を設定してください。

- **エラーレポートを有効にする**

この欄にチェックをすると、エラー情報を取得します。変更したら「Ok」ボタンを押してください。

- **使用するディスクサイズ**

エラー報告する際にどの程度の容量までのファイルで報告するかを選択します。ファイルのサイズが大きいくほど、問題を解消する機会を増やすことになります。(より詳しいエラー報告をすることができます。)

- **エラー情報アップロード**

アップロードボタンを押してエラーログをサーバへアップロードします。

以下の指針に従って各項目を設定してください。

- **プロトコル**
ダンプファイル送信の際に使用するプロトコルを表示します。
- **サーバ名**
ダンプファイルを送信するサーバ名または、IPアドレスを設定します(最大256文字)。
- **サーバ内相対パス**
ファイルの格納先の相対パスを設定します(最大256文字)。
- **Anonymous使用**
チェックの場合、サーバログオン時にAnonymousを使用します。
- **ユーザ名**
サーバログオン時のユーザ名を設定します(最大128文字)。
- **パスワード**
サーバログオン時のパスワードを設定します(最大128文字)。

画面解像度設定

画面解像度とスクリーンセーバーの設定を行います。

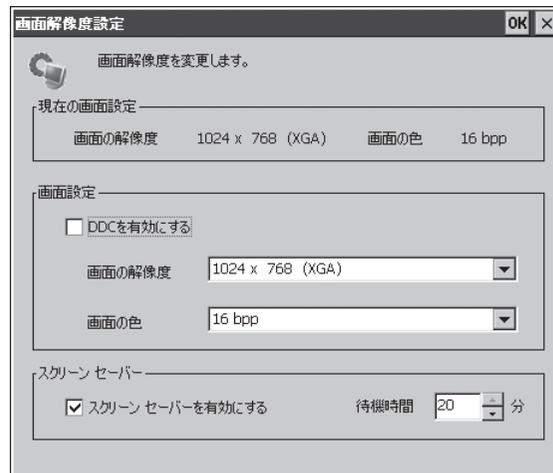


図2-75 画面解像度設定

画面設定は、DDCを有効にするか、手動で解像度と色数を設定します。
DDCを有効にすると、ディスプレイから自動的に最適な画面設定を取得します。



- DDCを使用する場合、使用するディスプレイがDDCに対応している必要があります。
- ワイドディスプレイ等で、US110Eの解像度として手動で設定できない解像度で表示する場合、現在の画面設定の「画面の解像度」が表示されません。

手動で設定する場合は、以下の解像度から選択します。

- **画面解像度**

画面解像度を選択します。

「640×480(VGA)」

「800×600(SVGA)」

「1024×768(XGA)」 (デフォルト)

「1280×1024(SXGA)」

「1600×1200(UXGA)」

- **画面の色**

「16bpp」と「32bpp」から画面の色を選択します。

- **スクリーンセーバー**

スクリーンセーバーの設定を行います。待機時間は1分～20分の間で設定します。



US110Eの画面表示性能を最大限に引き出すために、US110Eの画面色の設定と仮想PC接続の画面色設定を両方とも16ビットカラーに設定してのご使用を推奨します。

3

応用機能の利用

応用機能の利用について説明しています。

- ターミナル接続マネージャのログオン(→96ページ) ターミナル接続マネージャのログオン方法について説明します。
- コントロールパネルの管理者モードと
ユーザモード(→100ページ) コントロールパネルの管理者モードとユーザモードについて説明します。
- ソフトウェアアップデート(→101ページ) ソフトウェアアップデート方法について説明します。
- アプリケーションインストーラを使用した
ソフトウェアアップデート(→106ページ) アプリケーションインストーラを使用したソフトウェアアップデート方法について説明します。
- VPN接続について(→107ページ) VPN接続について説明します。

ターミナル接続マネージャのログオン

US110Eの電源投入後、ターミナル接続マネージャへのログオンダイアログボックスが開きます。



ターミナル接続マネージャのログオンは、システム管理者がターミナル接続マネージャへのログオンを有効にした場合に行います。ターミナル接続マネージャへのログオン設定については、「ログオン設定」(80ページ)を参照してください。

図3-1 ターミナル接続マネージャへのログオン

ユーザ名とパスワードは、システム管理者がアカウントを作成するときに決定します。パスワードは、ユーザが変更できます(「パスワードの変更」(97ページ)を参照してください)。

アカウントの作成については、「ファイルアップロード」(78ページ)を参照してください。



- ログオンできない場合は、システム管理者に問い合わせてください。
- ターミナル接続マネージャのログオン画面から、F2キーを押下すると、コントロールパネルを表示することができます。
- RDP接続の自動ログオンが利用できるようになっている場合、ここで入力した値(ユーザ名・パスワード・ドメイン名)が利用されます。
- ここで入力したドメイン名を次回ログオン時に使用したい場合は、ターミナル接続マネージャへのログオン設定で、「ドメイン名を保存する」を有効にします。

パスワードの変更

ターミナル接続マネージャへのログオンダイアログボックスで、ユーザ名、パスワード、ドメインを入力し、パスワード変更ボタンをクリックするとターミナル接続マネージャへのログオンパスワード変更ダイアログボックスでパスワードを変更できます。



図3-2 ターミナル接続マネージャへのログオンパスワード変更

- **パスワード**
新しいパスワードを入力します。(最大127文字)
- **パスワードの確認入力**
確認のためにパスワードを再入力します。

パスワード欄とパスワードの確認入力欄の両方に新しいパスワードを入力して、OKボタンをクリックします。

パスワードは、大文字、小文字、数字を含めて8文字以上である必要があります。

ユーザ・プロファイル

ユーザ・プロファイルはUS110Eに関する設定と接続を規定したものです。システム管理者が生成し、社内イントラネットHTTPサーバまたはFTPサーバに存在します。

ユーザ・プロファイルの生成については、「ファイルアップロード」(78ページ)を参照してください。

ユーザ・プロファイルは、ログオンするときにUS110Eがアクセスします。アクセスするファイルの場所は、ログオン設定で設定されている場所です。(「ログオン設定」(81ページ)を参照してください。)

ターミナル接続マネージャへのログオンを行った場合、選択できる接続エントリはログオンユーザ毎にシステム管理者により設定されています。

ターミナル接続マネージャへのログオンを行わなかった場合、前回使用していた接続エントリを使用します。ターミナル接続マネージャへのログオンを有効から無効に変更した場合は、前回ログオン時に使用していた接続エントリを使用します。

プロファイルにはグローバル・プロファイル、ユーザ・プロファイルがあります。

- **グローバル・プロファイル**

ターミナルの設定情報を保持します。同じサーバのすべてのクライアントが対象となります。

- **ユーザ・プロファイル**

個々のユーザのアカウント情報と接続先を保持します。

 ユーザ・プロファイルを変更したいときは、システム管理者に問い合わせてください。
チェック

どのUS110Eを使用しているかにかかわらず、ユーザ・プロファイルは同じです。システム管理者が許可した接続先へ接続することができます。

 US110Eを接続するネットワークにFTPサービスやHTTPサービスがなければ、ユーザ・プロファイルは利用できません。
チェック ユーザ・プロファイルを利用するには、ファイルダウンロード設定を使用して、サーバ情報を設定しなければなりません。

ログオフ

ログオン状態が無効の時、シャットダウンのボタンをクリックすると以下の画面が表示されます。

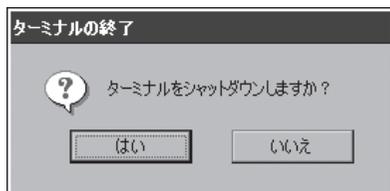


図3-3 ターミナルの終了

「はい」をクリックするとUS110Eをシャットダウンします。

ログオン状態が有効の時、シャットダウンのボタンをクリックすると以下の画面が表示されます。

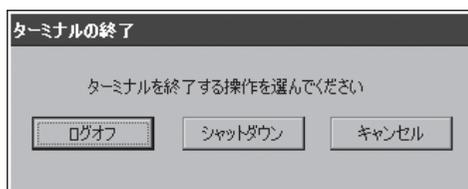


図3-4 ターミナルの終了(ログオフ)

ログオフをクリックするとターミナル接続マネージャへのログオンダイアログボックスが開きます。

シャットダウンをクリックするとUS110Eをシャットダウンします。

コントロールパネルの管理者モードとユーザモード

US110Eの権限には管理者モードとユーザモードがあります。

管理者モード

US110Eの機能すべてを使用できる権限を持っています。

ユーザモードから管理者モードへ切り替えるには、コントロールパネルを表示して、Ctrl+Shift+F8キーを押下します。

管理者パスワード入力ダイアログボックスが開きますので管理者パスワードを入力します。



管理者パスワードが設定されていない場合は、管理者パスワード入力欄に何も入力せずに「OK」ボタンをクリックします。



管理者パスワードは、同じダウンロードサーバに接続するすべてのUS110Eで共通です。ファイルアップロードの設定情報をサーバにアップロードすることにより、その設定をダウンロードするUS110Eで共有します。

ユーザモード

US110Eの機能を通常のユーザが使用する範囲で使用できます。「ユーザモード設定」によって以下の項目が制限できます。

- ターミナル接続マネージャ画面の構成タブの表示
- コントロールパネル画面に表示するアイコン

詳細は、「ユーザモード設定」(84ページ)を参照してください。

ソフトウェアアップデート

US110Eは、US110E OSまたはソフトウェアをアップデート、追加インストールするために、ネットワーク経由でダウンロードサーバにアクセスして、更新版のソフトウェアを取得します。

1. ネットワーク経由のソフトウェアアップデート

US110Eソフトウェアの更新ファイルを、FTPまたはHTTPサーバのフォルダに格納します。アップデートファイルは、US110E OSの場合はNK.nb0となります。その他アプリケーションの場合は、各アプリケーション固有のインストーラファイル(.cab)です。あわせてFTPまたはHTTPサーバのフォルダに、US110Eが取得するファイルを指定する一覧リスト(list.txt)を格納します。

US110Eのコントロールパネルで、FTP/HTTPサーバのアドレス、フォルダ、アップデートを自動実行するかどうか等の情報を設定します。更新時間はネットワーク負荷状況によりますが、US110E OS部分の更新で3分～5分程度かかります。またアップデートする内容によって、途中でUS110Eの再起動が必要となる場合があります。

2. 事前設定

次に以下に示す事前設定を行います。

FTP/HTTPサーバの設定

US110Eが更新版ソフトウェアを取得するFTPサーバ、またはHTTPサーバを用意します。

1. US110Eのソフトウェアアップデートに使用するFTP/HTTPサーバを準備する。
2. FTPサーバの場合で、anonymousアクセスを有効とする場合は、anonymousアクセスの設定を行う。
3. HTTPサーバを使用する場合、HTTPサーバの設定で、ダウンロードできるファイルの種類を確認する。

Windows 2003 ServerのIISのデフォルト設定では、nb0拡張子を持つファイルはダウンロードできません。IISマネージャで「MIMEの種類」を確認してください。US110Eでは、「NK.nb0」、「.cab」、「.txt」、「.cer」、「.pvk」、「.p12」、「.bmp」を使用しています。

4. FTP/HTTPサーバのフォルダにUS110E用のフォルダを作成する。

例) IISのデフォルトパスにUS110E用フォルダ“US110EUPDATE”を作成する場合

FTP : C:\inetpub\ftproot\US110EUPDATE

HTTP : C:\inetpub\wwwroot\US110EUPDATE

5. 作成したフォルダにアップデートファイルを格納する。
US110E OSの場合は、アップデートファイル名はNK.n0となる。その他アプリケーションの場合は、各アプリケーションのインストールファイル(.cab)となります。
6. 同フォルダにlist.txtファイルを格納する。
list.txtには、US110Eが同フォルダから取り込むファイルの一覧を記入します。Unicode形式で作成します。

DHCPサーバの設定

US110Eは、工場出荷時にはDHCPサーバからネットワークアドレスを取得するよう設定されています。DHCPサーバを使用するネットワークでは、DHCPオプションを使用することで、US110E側のアップデートの設定を省略することができます。

||  US110Eのアップデートで、DHCPサーバを使用しないように設定することもできます。
|| **チェック**

● US110Eで使用するDHCPオプション

US110EのDHCPオプション初期値は以下の通りです。DHCPオプション番号は、US110Eの設定により、変更することができます。

－ DHCPオプション番号：163

説明：ソフトウェアアップデートで使用するプロトコルとして、FTPまたはHTTPを選択する。

形式：バイト型

値：FTPを選択する場合：0×0、HTTPを選択する場合：0×1

－ DHCPオプション番号：161

説明：FTP/HTTPサーバ名またはIPアドレスを入力する。

形式：文字列型

値：サーバ名またはIPアドレス

－ DHCPオプション番号：162

説明：FTP/HTTPサーバ内の相対パス。

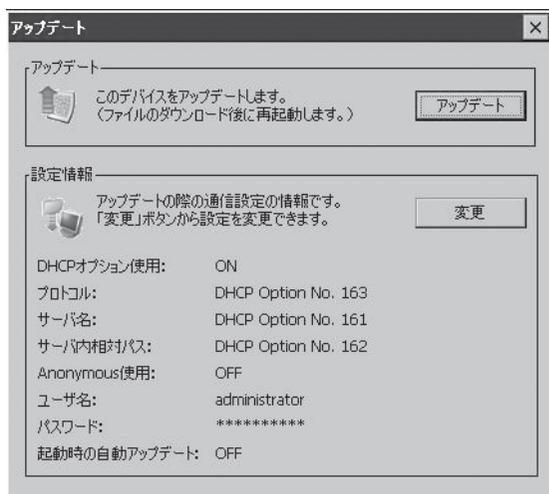
形式：文字列型

値：フォルダパス(前述の例の場合“USS110UPDATE”)を記載する。)

US110E 「アップデート」の設定

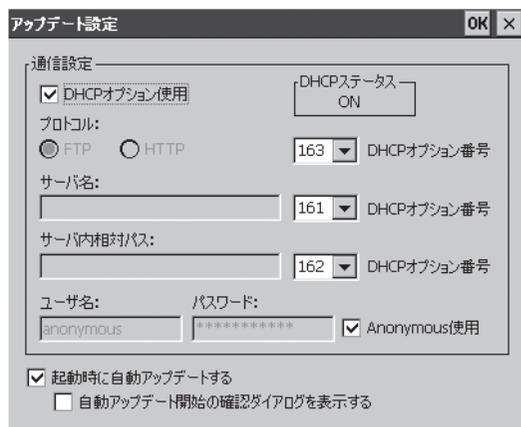
以下の手順でUS110Eのアップデートの設定を行います。

1. US110Eのコントロールパネルにて、アップデートのアイコンをダブルクリックする。



2. 「アップデート」の設定を確認する。

設定変更を行う場合は、「変更」ボタンをクリックして、各内容を設定してください。



● DHCPオプション使用

DHCPオプションを使用して、アップデートの設定情報を取得する場合は、「DHCPオプション使用」チェックボックスのチェックを入れて、「プロトコル」、「サーバ名」、「サーバ内相対パス」の各項目のDHCPオプション番号を選択します。

DHCPオプションを使用しない場合は「DHCPオプション使用」チェックボックスのチェックを外して、「プロトコル」、「サーバ名」「サーバ内相対パス」の欄にそれぞれ入力してください。

- **プロトコル**
アップデートファイルを取得するプロトコルを選択する。FTPまたはHTTPをラジオボタンで選択する。
- **サーバ名**
アップデートファイルを取得するサーバのサーバ名またはIPアドレスを入力する。
- **サーバ内相対パス**
アップデートファイルを格納するサーバ上のフォルダパスを入力する。(前述の例の場合“US110EUPDATE”と入力する。)
- **ユーザ名**
FTPサーバを使用する場合、サーバにアクセスするユーザ名を入力する。
Anonymousユーザを指定した場合はグレースアウトされます。
- **パスワード**
FTPサーバを使用する場合、サーバのアクセスするユーザのパスワードを入力する。
Anonymousユーザを指定した場合はグレースアウトされます。
- **Anonymous使用**
Anonymous使用時はチェックボックスにチェックを入れる。
チェックを入れると「ユーザ名」、「パスワード」欄はグレースアウトされます。
- **起動時に自動アップデートする**
「起動時に自動アップデートする」チェックを入れると、US110Eを起動する度に、設定されたサーバにアクセスを行い、ソフトウェアのバージョンチェックを行います。更新が見つかれば、自動的にアップデートを行います。
- **自動アップデート開始の確認ダイアログを表示する**
ダウンロードサーバにアップデートファイルが見つかった場合にアップデートの有無を確認するダイアログの表示有無を設定します。

3. ソフトウェアアップデートの実行

以下の手順でソフトウェアアップデートを実行します。

● 手動実行

1. US110Eコントロールパネルから「アップデート」を開く。
2. 「アップデート」ボタンを押下する。
3. アップデート処理が実行される。

● 自動実行(US110E起動時)

1. コントロールパネルの「アップデート」で「起動時に自動アップデートする」チェックボックスにチェックを入れる。
2. US110Eを再起動する。
3. US110E起動時にアップデートが開始される。

4. US110E ソフトウェアバージョンの確認方法

US110EのOSバージョンは以下の箇所で確認できます。

- US110E起動時の「準備ステータス」画面に「OS OEM Build Version」が表示されます。なお、ネットワークに接続されていない場合、当該画面は表示されません。
- US110Eコントロールパネルの「システム」アイコンをダブルクリックして、「情報」タブを選択すると、OS OEM Build Versionの他、US110Eにインストールされている各種アプリケーションのバージョン情報が確認できます。



- common.txt、ユーザプロファイル([ユーザ名].txt)、prnlist.txt、証明書(.cer等)、背景画像(.bmp)のバージョン管理は、US110E内部では各ファイルの作成時間で管理しています。例えば、FTPサーバにアップされたcommon.txt(2007年11月15日13時15分作成)を一度読み込んだUS110Eは、起動時に自動アップデートの指定があっても同じFTPサーバにアクセスし続ける場合は、同じ作成時刻のcommon.txtを再度読み込むことはありません。しかしダウンロードサーバを変更した場合は、同じ作成時刻のcommon.txtを再度読み込む場合があります。
これは、ダウンロードサーバが変更されると、変更前と後のサーバのプロトコルやタイムゾーンの違いによって、両サーバから取得されるファイルの作成時間が異なる場合があるためです。
- US110Eは初期設定として、起動時に自動アップデート、DHCPオプションの161、162、163を使用する設定となっています。DHCPオプションを使用しているネットワークシステムですでにオプション番号：161、162、163を別用途で使用している場合は、US110Eのアップデートの設定を変更してください。

アプリケーションインストーラを使用したソフトウェアアップデート

US110Eではソフトウェアをアップデートする方法として、USBストレージを使用する方法も提供しています。USBストレージからのアップデートは、管理者モードでのみ実行できません。

USBストレージを使用する場合はUSBストレージ内に「US110E」という名前のフォルダを作成し、その中にアップデート対象のインストールファイルと一覧リスト(list.txt)ファイルを格納します。

USBストレージからのアップデートはコントロールパネルの「アプリケーションインストーラ」から実行します。

USBストレージからのアップデート

以下の手順でソフトウェアアップデートを実行します。

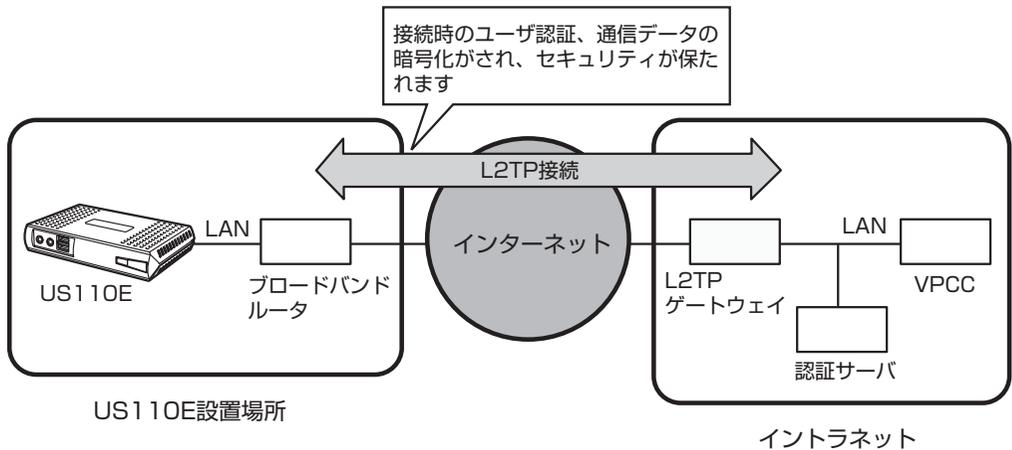
1. FATでフォーマットされたUSBメモリ内に「US110E」という名前のフォルダを作成する。
2. US110Eフォルダ内にOS(NK.nb0)ファイルを置く。
3. list.txtファイルをUS110Eフォルダ内に作成する。
list.txtはアップデートの対象となるファイル名を記入します。OSアップデートの場合「NK.nb0」と記載します。Unicode形式で保存してください。
4. 手順1にて準備したUSBメモリをUS110Eに接続する。
5. US110Eを起動させ、コントロールパネルを開き「Ctrl+Shift+F8」と「管理者パスワード」を入力することにより管理者モードへ切り替える。
6. 再度コントロールパネルを開いて管理者モードのコントロールパネルを開く。
7. コントロールパネル内の「アプリケーションインストーラ」を開く。
8. 「インストール開始」ボタンを押下する。
OSのアップデートが開始されます。
9. アップデート実行時US110Eの再起動を促すダイアログが表示される場合があるので、ダイアログに従って再起動を実行する。

VPN接続について

ここでは、VPN接続について説明します。

VPN接続のシステム構成図

US110Eをインターネット経由で会社内のVPCCに接続する場合のネットワーク構成として、「L2TP+IPSec方式」を用いた方式を示します。



L2TP+IPSec方式でUS110EがVPN接続を行うと、イントラネットのIPアドレスが付与されて、イントラネットに接続している状態と同じになり、VPCCとアクセスすることができます。

構成

US110E設置場所：

- ブロードバンドルータ： インターネットとの接続を行います。

イントラネット：

- L2TPゲートウェイ
 - － インターネットとの接続を行います。認証サーバと連携して、US110EとのVPN通信を行います。
 - － データ暗号化にはIPSecを使用します。IPSec認証方式としては、「Preshared Key (事前鍵共有方式)」を使用します。ここで設定したPreshared Keyの文字列は、US110Eにも設定します。
 - － US110EへのIPアドレスの払い出し方針を選択します(L2TPゲートウェイで設定する方式と、外部認証サーバで設定する方式から選択をします)。
 - － ユーザ認証方式にはRADIUSを利用します。RADIUSの認証プロトコルは「PAP」を使用します。
 - － ユーザ認証を外部のRADIUSサーバを利用する場合には、L2TPゲートウェイで接続設定を行います。
- RADIUS認証サーバ：
 - － インターネット接続時のユーザ認証を行います。L2TPゲートウェイからの認証要求に応答するように設定します。

設定は、それぞれの装置の設定方法に従ってください。

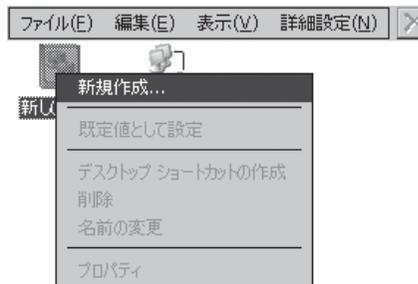
US110EのVPN設定方法

以下の手順で設定します。

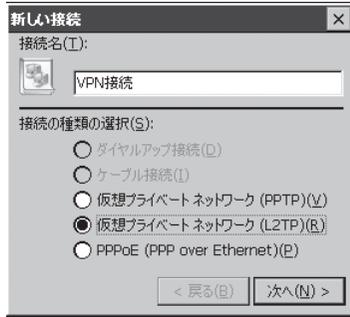
1. 「コントロールパネル」から「ネットワークとダイヤルアップ接続」を選択する。



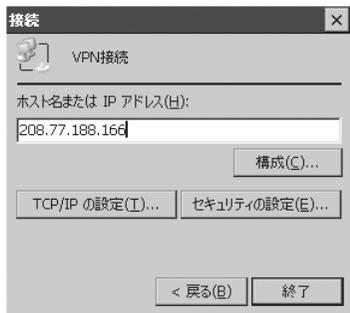
2. 「新しい接続」アイコンを右クリックして「新規作成」を選択する。



3. 「接続名」に適切な名前（例：「VPN接続」）を入力し、「接続の種類の選択」で「仮想プライベートネットワーク(L2TP)」を選択し、「次へ(N)」を選択する。



4. 「ホスト名またはIPアドレス(H)」に、L2TPゲートウェイのIPアドレスを入力する。

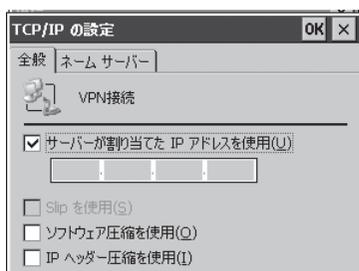


5. 「接続」ウインドウから「構成」を選択する。

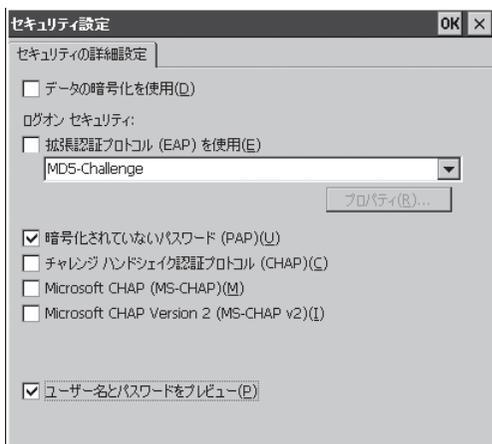
「IPSec設定」で「事前共有キーを使用」を選択して、L2TPゲートウェイに設定したPresharedキーの値を入力して「終了」を選択します。



6. 「接続」ウインドウから「TCP/IPの設定」を選択する。
「サーバが割り当てたIPアドレスを使用」にチェックします。



7. 「セキュリティの設定」を選択する。
「暗号化されていないパスワード(PAP)」と「ユーザー名とパスワードをプレビュー」をチェックします。



上記設定を終了したら「接続」ウインドウにて「終了」を選択します。

US110EのVPN接続方法

以下の手順でVPN接続を行います。

1. US110E をLANに接続した後、「コントロールパネル」-「ネットワークとダイヤルアップ接続」を選択する。
2. 先ほど作成した接続名のアイコンをクリックする。
3. 管理者から通知された L2TP接続用のユーザ名、パスワードを入力する。

RDP暗号化レベルの設定

Win2003のターミナルサービスを利用している場合には、ターミナルサービス構成にて暗号化レベルの設定ができます。

ターミナルサービス構成 -> 接続 -> RDP-Tcpプロパティ -> 全般タブに暗号化レベルがあります。「FIPS 準拠 / 高 / クライアント互換 / 低」の4つの選択値が存在し、デフォルトはクライアント互換です。

WinXPでは、グループポリシーにて暗号化レベルの設定ができます。

mmcを起動し、スナップインの追加で、グループポリシーオブジェクトエディタを追加します。

ローカルコンピュータポリシー -> コンピュータの構成 -> 管理用テンプレート -> Windows コンポーネント -> ターミナルサービス -> 暗号化とセキュリティに「クライアント接続の暗号化レベルを設定する」があります。

この設定を有効にし、暗号化レベルを「クライアント互換 / 高レベル / 低レベル」から、選択してください。

4 運用・保守

US110Eの運用および保守について説明しています。

クリーニング(→114ページ) クリーニングについて説明します。

トラブルシューティング(→116ページ) トラブルシューティングについて説明します。

クリーニング

本製品を良い状態に保つために定期的にクリーニングしてください。

 警告	
	<p>本製品を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none">● 自分で分解・修理・改造はしない

本体のクリーニング

本製品の外観の汚れは、柔らかい布でふき取ってください。汚れが落ちにくいときは、次のような方法できれいになります。



- シンナー、ベンジンなどの揮発性の溶剤は使わないでください。材質のいたみや変色の原因になります。
- コンセント、ケーブル、本製品背面のコネクタ、本製品周辺は絶対に水などでぬらさないでください。

1. 本製品の電源がOFFになっていることを確認する。
2. 本製品の電源コードをコンセントから抜く。
3. 電源コードの電源プラグ部分についているほこりを乾いた布でふき取る。
4. 中性洗剤をぬるま湯または水で薄めて柔らかい布を浸し、よく絞る。
5. 本製品の汚れた部分を手順4で用意した布で少し強めにこすって汚れを取る。
6. 真水でぬらしてよく絞った布でもう一度ふく。
7. 乾いた布でふく。

キーボード／マウスのクリーニング

本製品の外観の汚れは、柔らかい布でふき取ってください。汚れが落ちにくいときは、次のような方法できれいになります。

重要 キーボードおよびマウスは、USBインターフェースであるため、本製品への取り付け・取り外しは本製品の電源をOFFにする必要はありません。

キーボードは本製品および周辺機器を含むシステム全体の電源がONのまま取り外し、キーボードの表面を乾いた布で拭いてください。

マウスが正常に機能するためには、内部のマウスボールがスムーズに回転できる状態でなければなりません。マウスボールの汚れを防ぐためにほこりの少ない場所で使用して、定期的に次の手順でクリーニングしてください。

1. 本製品の電源がONのまま、キーボードのUSBハブからマウスを取り外す。

2. マウスを裏返してマウスボールカバーを反時計回りに回して中からマウスボールを取り出す。

3. マウスボールを乾いた柔らかい布などでふいて、汚れを取り除く。

汚れがひどいときはぬるま湯、または水で薄めた中性洗剤を少量含ませてふいてください。

4. マウス内部にある3つの小さなローラを綿棒などでふく。

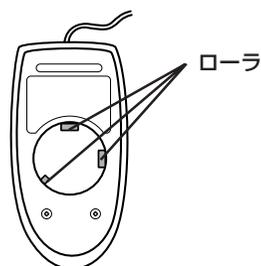
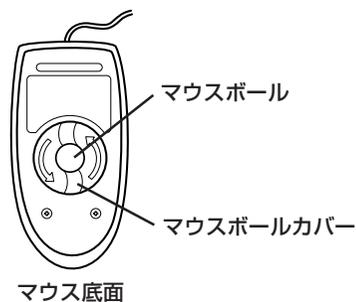
汚れがひどいときはアルコールなどを少量含ませてふいてください。

5. マウスボールをマウスの中に戻す。

手順3、4でマウスボールやローラをぬらした場合は、十分に乾燥させてからボールを入れてください。

6. マウスボールカバーを元に戻して、時計回りに回してロックする。

7. マウスを本製品(キーボードのUSBハブ)に接続する。



トラブルシューティング

US110E起動に関するトラブル

外部モジュールの起動に失敗した

- SSC連携切替が設定されていますが、ダウンロードエージェント、ログオンエージェントが正しくインストールされていません。ダウンロードエージェント、ログオンエージェントをインストール後、SSC連携切替を設定してください。



インストールされているアプリケーションの情報は、システムアイコンをクリックしアプリケーションタブを選択すると確認することができます。

ログオン画面でのトラブル

ログオン画面から先に進めない

- ターミナル接続マネージャまたはクライアント管理オプションのログオン画面から、F2キーを押下すると、コントロールパネルを表示することができます。コントロールパネルで設定を確認してください。

ターミナル接続マネージャへのログオンに関するトラブル

パスワードの検証に失敗した

- アップロードサーバにあるユーザプロファイルが正しくありません。ファイルアップロードアプリケーションで、ユーザプロファイルを再度作成してください。

複数のシンクライアントを組み合わせて使用する場合のトラブル

PowerPointやWebページの画像や動画が表示されない

- 仮想PCへの接続をログオフせずに切断状態にして、別のシンクライアントから再接続する場合は、最初の接続と、次の接続の色深度を同じ設定としてください。例えば、最初にUS110Eで接続する場合の、接続の色深度が16ビットの場合は、次に接続する別のシンクライアント(例えばUS100E、またはWindowsXPのRDPクライアント)の接続の色深度も16ビットとしてください。接続の色深度が一致していない場合、後の接続でPowerPointやWebページ等の画像が表示されない場合があります。色深度が違うシンクライアントから接続する可能性がある場合は、各クライアントでの作業を終える場合は、切断ではなく、仮想PCからログオフする運用としてください。

特にUS100Eとの共存環境では、US100EのRDP接続の色設定に15ビットは使用しないでください。15ビットを使用した場合、動画が表示されない場合があります。

RDP/ICA/SNTP等の接続でのトラブル

RDP/ICA/SNTP等の接続に失敗した

→ NetBIOS名で名前解決できなかった場合、完全修飾ドメイン名を指定するようにしてください。

× 接続先：vpc-01

○ 接続先：vpc-01.vpcc.nec.com

ICAクライアントに関するトラブル

日本語版ICAクライアントで文字化けが発生する

→ 日本語版ICAクライアントで日本語以外のロケールを選択をすると、メッセージやツール内のテキストが文字化けする場合があります。このバージョンのICAクライアントでは、日本語以外のロケールを選択することはサポートしていません。

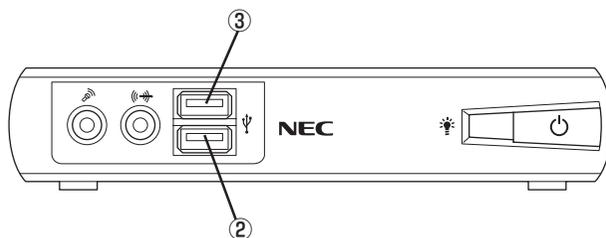
USBでのトラブル

? US110Eにプリンタを接続して起動するとキーボード、マウスが使用できなくなる。

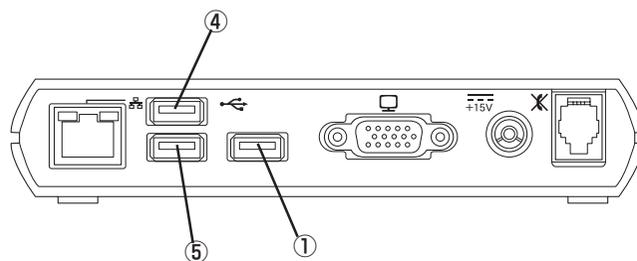
→ USBプリンタを接続してUS110Eを起動した場合に、スキャナデバイス等のドライバ名入力のポップアップが表示され、入力待ち状態になる場合があります。この時、USBプリンタが、キーボード、マウスが接続されているUSBポートより、優先順位の高いUSBポートへ接続されていた場合には、キーボード、マウスが使用できません。

キーボード、マウスをプリンタデバイスより優先順位の高いUSBポートへ接続することで、マウス、キーボードが利用できるようになります。USBポートの優先順位は以下を参照ください((優先度高)①>②>③>④>⑤(優先度低))。

装置前面



装置背面



付録A 仕様

項目		仕様
CPU		ARM926EJ 400MHz CPU
Memory		128MB
LPC Flash Memory		1MB
NAND Flash Memory		128MB
Network Interface		10/100/1000BASE-TX
External Interface	Front	USB×2、Microphone×1、Line-Out×1
	Rear	USB×3、LAN×1、VGA×1、RJ-22×1
Graphics		MAX 1600×1200
External Dimensions(mm)		150 (W) ×100 (D) ×25 (H)
Weight		500g
AC Adapter		15W 3A
Power Consumption		20W
Environmental Requirement	Temperature	10 to 35°C
	Humidity	20 to 80% (no condensation)
OS		Windows CE 5.0
OS (Virtual PC)		Windows XP
OS (Terminal Service)		Windows Server 2003

索引

A

ACT ランプ [3](#)

C

CMO マネージャ [12](#)

D

DHCP サーバ [11](#), [12](#)

F

FTP サーバ [11](#)

H

HTTP サーバ [11](#)

I

ICA クライアント [67](#)

ICA 接続 [27](#)

ICA 接続構成 [33](#)

ipconfig ユーティリティ [73](#)

L

LAN コネクタ [3](#)

LCD 可動ブラケット [7](#)

N

netstat ユーティリティ [73](#)

P

ping 診断ユーティリティ [73](#)

POWER スイッチ [2](#)

POWER ランプ [2](#)

prnlist.txt の作成 [57](#)

Provisioning Manager [12](#)

PVM [12](#)

R

RDP 暗号化レベルの設定 [112](#)

RDP 接続 [27](#)

RDP 接続構成 [28](#)

RJ-22 コネクタ [3](#)

S

SNTP [74](#)

SNTP サーバ [11](#)

SPEED ランプ [3](#)

SSC エージェント [87](#)

U

US110E をシャットダウン
する [21](#)

USB コネクタ [2](#), [3](#)

USB ストレージからのアップ
デート [106](#)

V

Virtual PC Center
[10](#), [11](#), [12](#), [13](#)

VPCC [10](#), [11](#), [12](#), [13](#)

VPN [13](#)

VPN GW [13](#)

VPN 設定方法 [109](#)

VPN 接続 [107](#)

VPN 接続のシステム構成図
[107](#)

VPN 接続方法 [112](#)

ア

アップデート [75](#)

アップデート設定 [77](#)

アップロードサーバ [11](#)

アプリケーションインストーラ
[88](#), [106](#)

安全上のご注意 [v](#)

安全にかかわる表示 [iii](#)

運用 [113](#)

エラーレポートイング [92](#)

応用機能 [95](#)

カ

各種機能 [23](#)

拡張1 [11](#)

拡張2 [12](#)

仮想 PC 接続先を設定する [18](#)

仮想 PC に接続する [19](#)

仮想 PC をログオフする [20](#)

画面 [40](#)

画面解像度設定 [94](#)

管理者パスワード設定 [83](#)

管理者モード [100](#)

キーボード [38](#)

キーボード/マウスの
クリーニング [115](#)

記号 [iv](#), [xii](#)

機能 [2](#)

機能仕様 [x](#)

基本構成 [10](#)

基本設定 [68](#)

基本操作 [14](#)

クライアントライセンス [61](#)

クリーニング [114](#)

コントロールパネル [35](#), [100](#)

サ

サーバーの場所 [69](#)

サウンド [44](#), [45](#)

時刻 [46](#)

システム [62](#)

事前設定 [101](#)

シャットダウンモード設定 [86](#)

仕様 [119](#)

使用上のご注意 [iii](#)

ショートカットキー [67](#)

譲渡 [xv](#)

情報 [62](#)

証明書 [64](#)

設置 [4](#)

設定初期化 [82](#)

接続 [4](#), [8](#)

ソフトウェアアップデート
[101](#), [106](#)
ソフトウェアアップデートの
実行 [105](#)
ソフトウェアバージョンの確認
方法 [105](#)

タ

ターミナルサーバ [61](#)
ターミナル接続マネージャ [25](#)
ターミナル接続マネージャの
ログオン [96](#)
ダウンロードサーバ [11](#)
地域と言語の設定 [60](#)
ディスプレイ解像度を設定する
[17](#)
デバイス名 [63](#)
電源コネクタ [3](#)
動作保証されない機能 [x](#)
トラブルシューティング [116](#)
取り扱い上のご注意 [ix](#)

ナ

認証サーバ [13](#)
ネットワーク [47](#)
ネットワーク経由のソフト
ウェアアップデート [101](#)
ネットワークプリンタの追加
[54](#)
ネットワークユーティリティ
[72](#)
ネットワークを設定する [16](#)

ハ

廃棄 [xvi](#)
背景 [40](#)
はじめに [xi](#)
パスワードの変更 [97](#)
バックライト [43](#)
日付 [46](#)
表示 [41](#)
ファイヤーウォールの設定 [70](#)
ファイルアップロード [78](#)
付属品 [xiv](#)
プリンタ [48](#)
プリンタの削除 [57](#)

プリンタのプロパティ [57](#)
ペDESTール兼LCDブラ
ケット [6](#)
保守 [113](#)
ポリューム [44](#)
本書について [xii](#)
本書の構成 [xiii](#)
本体のクリーニング [114](#)

マ

マイクロホンコネクタ [2](#)
マウス [39](#)
マウスボール [115](#)
マウスボールカバー [115](#)
名称 [2](#)
メモリ [62](#)
モニタコネクタ [3](#)

ヤ

ユーザーインターフェイス言語
[60](#)
ユーザ・プロファイル [98](#)
ユーザモード [100](#)
ユーザモード切り替え [85](#)
ユーザモード設定 [84](#)

ラ

ラインアウトコネクタ [2](#)
ローカルプリンタの追加 [48](#)
ローラ [115](#)
ロギング [90](#)
ログオフ [99](#)
ログオン設定 [80](#), [81](#)
ログオン設定情報 [80](#)

US110E
ユーザーズガイド

2008年4月 初版
2008年5月 第2版

日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目7番1号
TEL (03) 3454-1111 (大代表)

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

© NEC Corporation 2008

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

<本製品の利用目的について>

本製品は、高速処理が可能であるため、高性能コンピュータの平和的利用に関する日本政府の指導対象になっております。

ご使用に際しましては、下記の点につきご注意ください。よろしくお願いいたします。

1. 本製品は不法侵入、盗難等の危険がない場所に設置してください。
2. パスワード等により適切なアクセス管理をお願いいたします。
3. 大量破壊兵器およびミサイルの開発、ならびに製造等に関わる不正なアクセスが行われるおそれがある場合には、事前に弊社相談窓口までご連絡ください。
4. 不正使用が発覚した場合には、速やかに弊社相談窓口までご連絡ください。

弊社相談窓口 ファーストコンタクトセンター
電話番号 03-3455-5800

注 意

本製品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。本製品は家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に接近して使用されると電波妨害を引き起こすことがあります。本書に従って正しい取り扱いをしてください。

回線への接続について

本製品を公衆回線や専用線に接続する場合は、本製品に直接接続せず、技術基準に適合し認定されたボードまたはモデム等の通信端末機器を介して使用してください。

電源の瞬時電圧低下対策について

本製品は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置(UPS)等を使用されることをお勧めします。

海外でのご使用について

本製品は、日本国内での使用を前提としているため、海外各国での安全規格等の適用を受けておりません。したがって、本製品を輸出した場合に当該国での輸入通関および使用に対し罰金、事故による補償等の問題が発生することがあっても、弊社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。